筑波大学
University of Tsukuba

大学図書館の機能再考

筑波大学附属図書館副館長　加藤信哉 skato@tulips.tsukuba.ac.jp

第74回私立大学図書館協会総会・研究大会　於：中京大学名古屋キャンパス　2013年8月30日

本日の講演の流れ

- はじめに

  大学図書館に求められる機能・役割
- 図書館の認識（機能）モデル

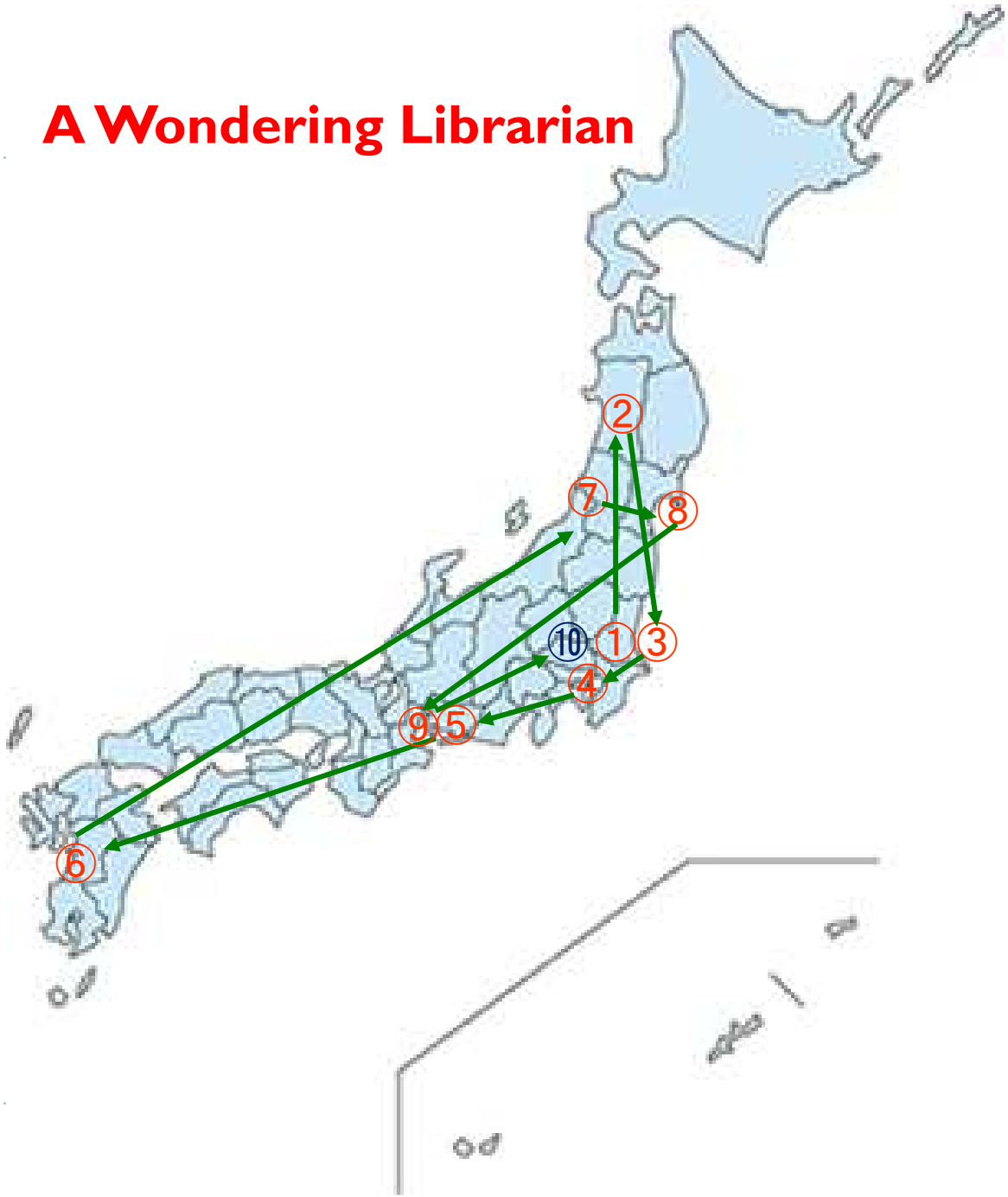
  大学を取り巻く環境の変化と図書館
- 大学図書館の機能再考

  大学図書館の構成要素とそれらの変化
- おわりに

自己紹介—図書館歴

- 1976.4　筑波大学図書館部（入職）（1）
- 1981.4　秋田大学附属図書館
- 1983.4　図書館情報大学図書館情報課
- 1992.4　東京大学附属図書館
- 1999.4　名古屋大学附属図書館（1）
- 2002.4　熊本大学附属図書館
- 2004.4　山形大学附属図書館
- 2007.4　東北大学附属図書館
- 2011.4　名古屋大学附属図書館（2）
- 2013.4　筑波大学附属図書館（2）

A Wondering Librarian



大学図書館に求められる機能・役割（1/4）

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与

ア. 学習支援

・学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され，ラーニング・コモンズ，大学図書館職員等によるレファレンスサービス，学習支援が重要。

イ． 教育活動への直接の関与

・情報を探索し，分析・評価し，発信するスキルを一層高める情報リテラリシーは，大学図書館が主体となって取り組むことが求められており，カリキュラム開発や実施を教員と協同して行うだけでなく，図書館職員が教員を兼務するなどして，直接授業を担当することも視野にいれるべき。また，e-Learningへの貢献が期待される。

出典：『大学図書館の整備について（審議のまとめ） 概要』2010

大学図書館に求められる機能・役割（2／4）

2. 研究活動に即した支援と知の生産への貢献

・研究活動支援は，学術雑誌，図書等研究を進めるうえで必要な情報を確保することであり，いわゆるe-ScienceやCSIのシステム構築・運用に当たって大学図書館側からの貢献を期待。

・機関リポジトリは，研究者自らが論文等を搭載していくことにより学術情報流通を改革するとともに，その公開の迅速性を確保。同時に，大学等における教育研究成果の発信を実現し，社会に対する教育研究活動に関する説明責任の保証や，知的生産物の長期保存などを図る上でも，大きな役割を果たすもの。

出典：『大学図書館の整備について（審議のまとめ） 概要』2010

大学図書館に求められる機能・役割（3／4）

3. コレクション構築と適切なナビゲーション

- 大学図書館の業務は，電子化された学術情報へのアクセス確保のための外国出版社等との調整や交渉に大きく変化。さらに，既存のコンソーシアム連携により，電子ジャーナルの効率的な整備に向けた体制を強化するため，関係機関等の協力が必要。
- 大学図書館には多様な学術情報への的確で効率的なアクセスを確保することが求められており，例えばディスカバリーサービスのような，より適切で効果的なナビゲーションの在り方を検討することが重要。

出典：『大学図書館の整備について（審議のまとめ） 概要』2010

大学図書館に求められる機能・役割（4／4）

4. 他機関・地域との連携並びに国際対応

・大学図書館の役割を果たすためには，学内の多様な組織との連携の他，学外の関連機関との連携も必要。また、MLA連携や公共図書館との連携も重要。

・大学の国際競争力向上の観点から，大学図書館においても、海外の大学図書館との連携や職員の国際的対応能力の向上等を図ることが必要。

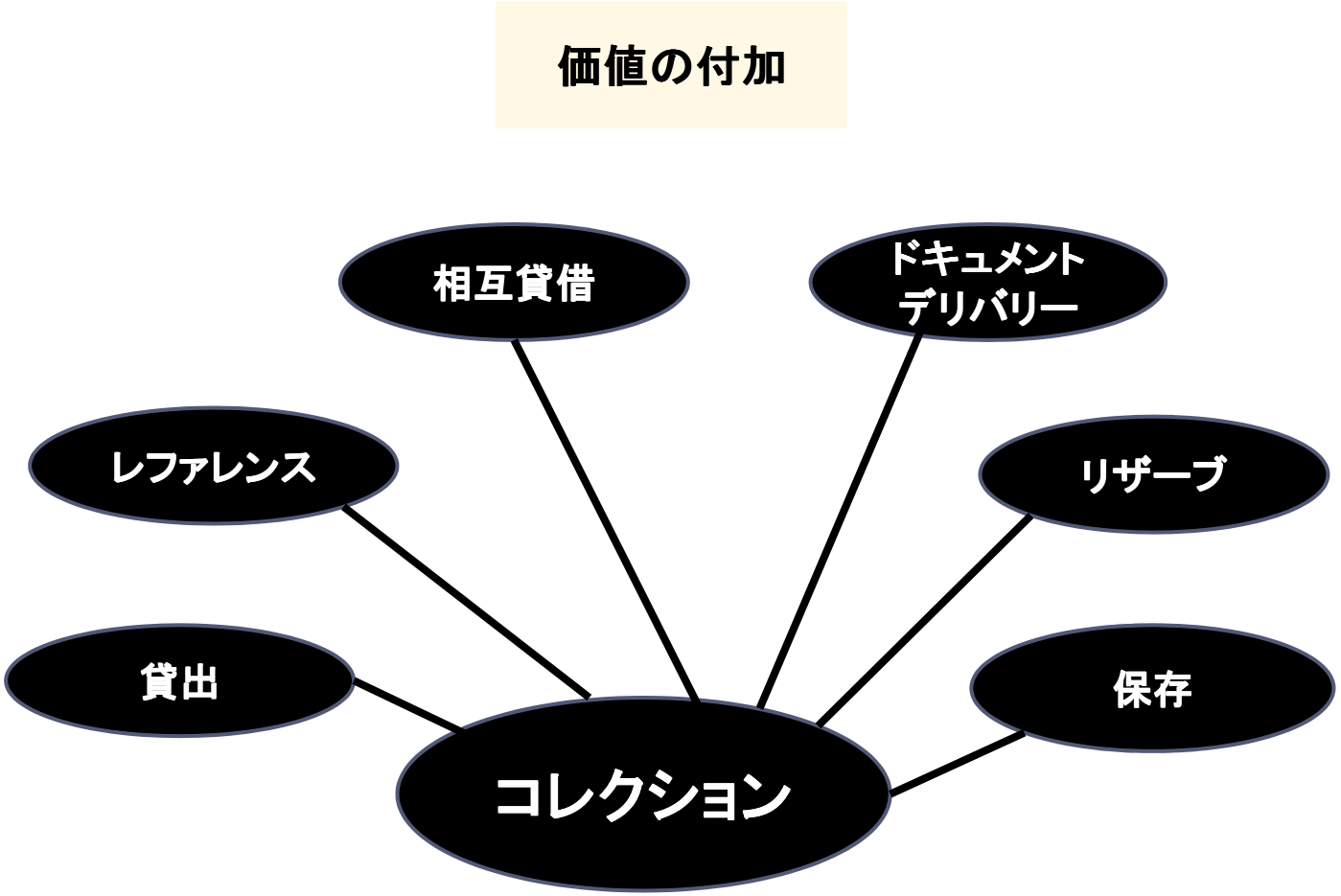
出典：『大学図書館の整備について（審議のまとめ） 概要』2010

本日の講演の流れ

- はじめに
- 図書館の認識（機能）モデル

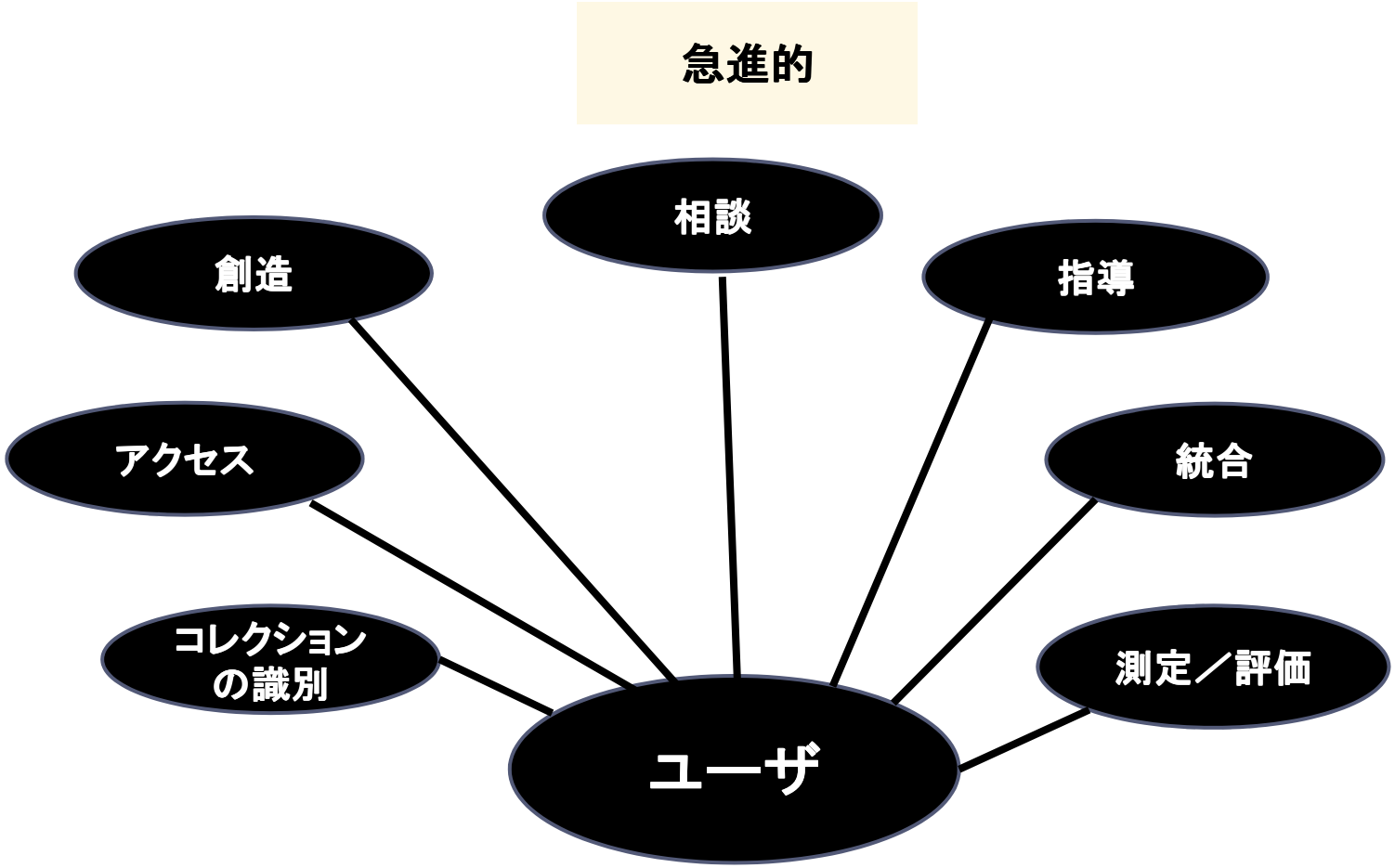
  従来のモデル／今後のモデル
- 大学を取り巻く環境の変化と図書館
- 大学図書館の機能再考
- 大学図書館の構成要素とそれらの変化
- おわりに

従来の認識モデル



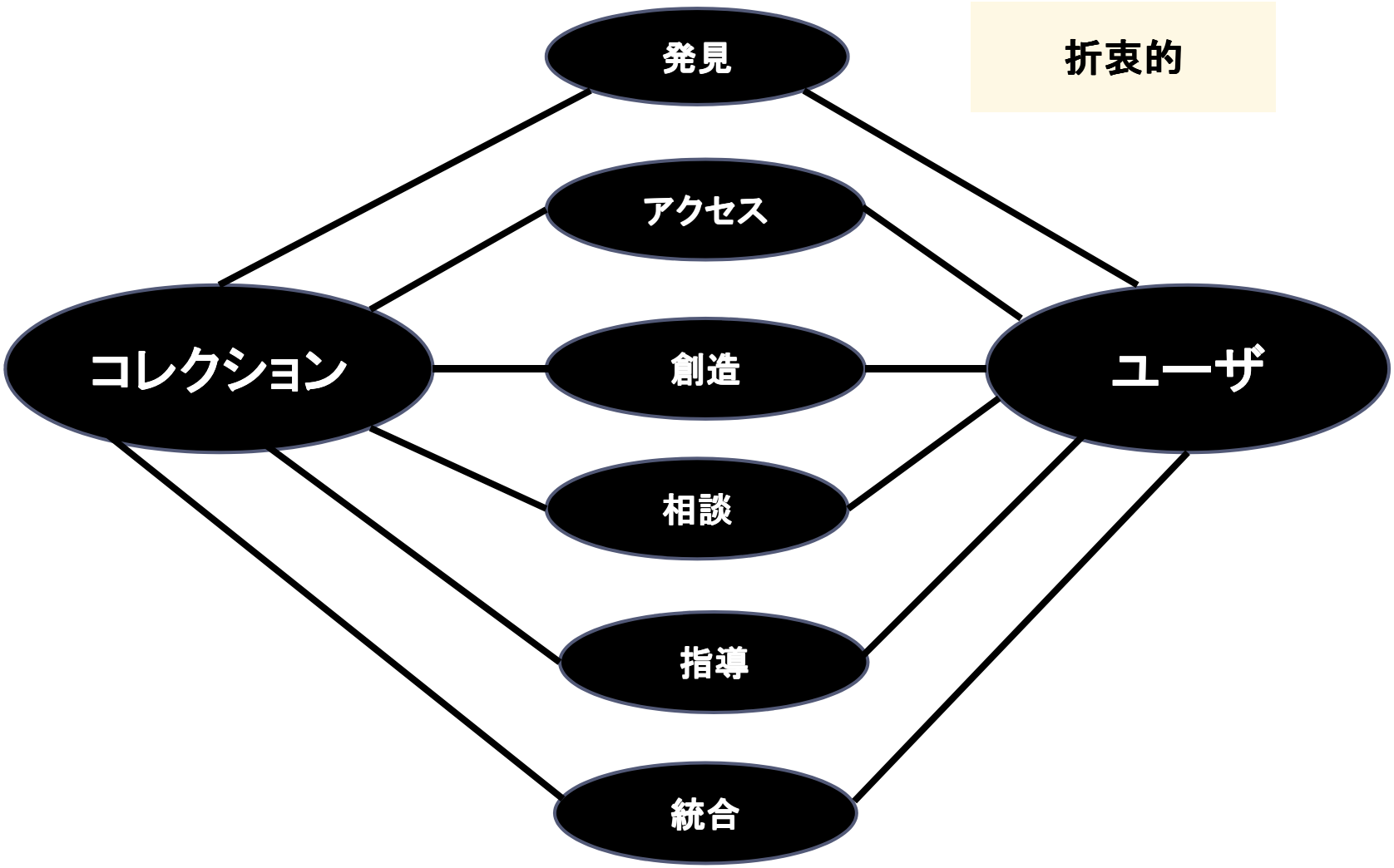
出典：Iannuzzi, P.A. *Changing learning, changing roles*. 2007.

今後の認識モデル（ユーザ中心）



出典：Iannuzzi, P.A. *Changing learning, changing roles*. 2007.

今後の認識モデル（コネクション開発）



出典：Iannuzzi, P.A. *Changing learning, changing roles*. 2007.

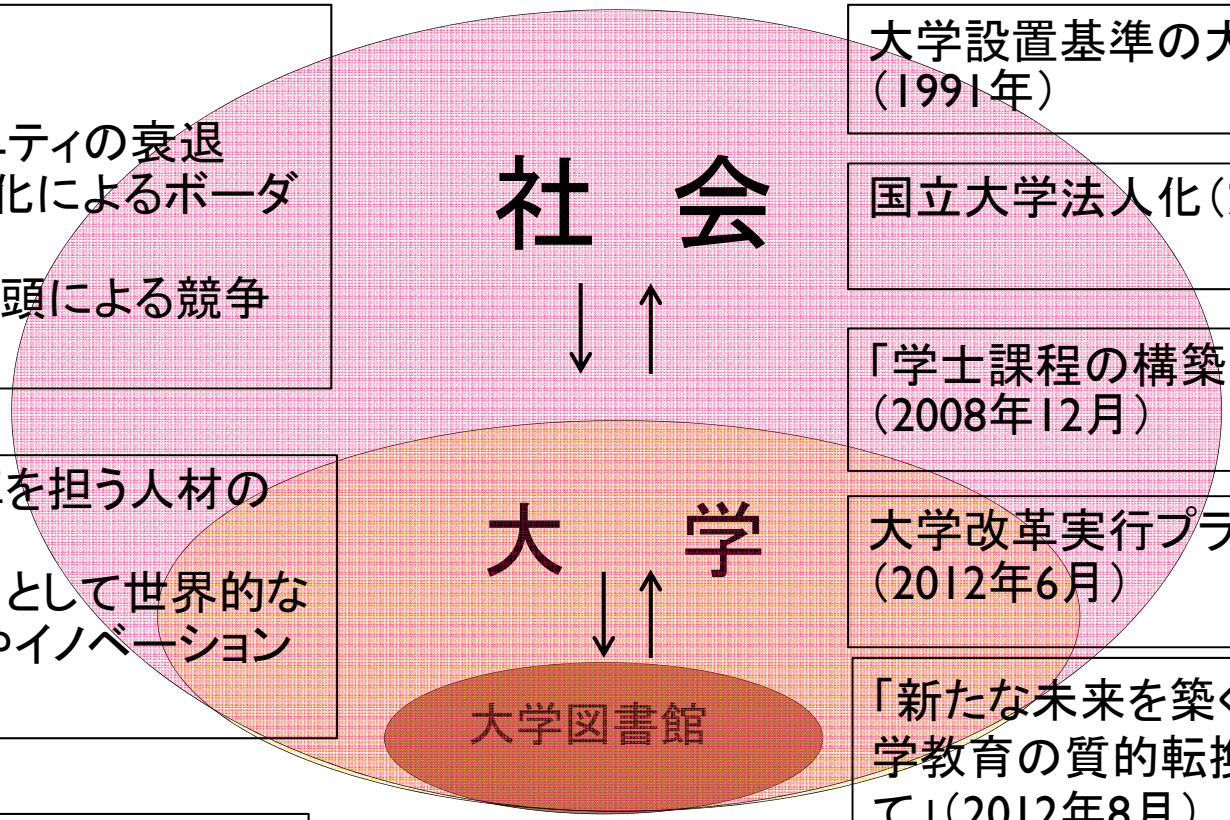
本日の講演の流れ

- はじめに
- 図書館の認識（機能）モデル
- 大学を取り巻く環境の変化と図書館

  大学図書館の置かれている位置／調査からの重要な教訓／変化した情報環境／大学教員・研究者の意識（米国・英国）／大学図書館管理者が予測する大学図書館の未来
- 大学図書館の機能再考
- 大学図書館の構成要素とそれらの変化
- おわりに

大学図書館の置かれている位置

・少子化
・高齢化
・地域コミュニティの衰退
・グローバル化によるボーダレス化
・新興国の台頭による競争激化



大学設置基準の大綱化（1991年）

国立大学法人化（2004年）

「学士課程の構築に向けて」（2008年12月）

大学改革実行プラン（2012年6月）

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（2012年8月）

・社会の変革を担う人材の育成
・「知の拠点」として世界的な研究成果やイノベーションの創出

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」（2013年8月）

「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」（2012年7月）

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）（2010年12月）

調査からの重要な教訓（1/6）

情報環境を一変させる変化

1. 蔵書（コレクション）の量は急速に重要性を失いつつある

2. 従来型の図書館指標では、学術的なミッションのための価値を捕えられない

3. 学術雑誌の価格上昇により異なる出版モデルが求められている

4. 図書館に対し、容易なアクセスを誇る実行可能な代案が急速に成長している

5. 従来型の図書館サービスの需要が減少している

6. 利用者の新しいニーズにより予算と組織文化の限界が拡張している

出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011.

調査からの重要な教訓（2/6）

I.　デジタルコレクションの活用

7. 転換点を迎えた電子書籍の普及

8. 低コストで広範なアクセスを実現する大規模なデジタルコレクション

9. 技術的制約にも阻まれないデジタルへの移行

10. アクセスへの最大の障壁は、残された利用制限と著作権

11. 利用者主導の選書モデルにより、「ジャストインタイム（just in time）」の購入アプローチが可能に

出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011.

調査からの重要な教訓（3/6）

II. 学術出版モデルの再考

12. 図書館コンソーシアムのコスト削減に必須の集中的購買権限

13.「ビッグディール（大口取引）」の代替として台頭する論文単位の購買モデル

14. 出版ビジネスモデルを崩壊させかねないオープンアクセスへの圧力

15. オープンアクセスのインフラ奨励・提供に携わる多くの学術機関

出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011.

調査からの重要な教訓（4/6）

III. 図書館スペースの再活用

16. 紙資料のローカル（現地）コレクションは膨大で高価だが、めったに利用されない

17. バーチャルな発見ツールの出現がセレンディピティ（偶然の発見）への代替経路を提供

18. 利用状況データ、電子アクセスおよびローカルホールディングの活用による、蔵書コレクションの優先順位決定

19. 除籍の組織化および体系化による蔵書再配置反対の緩和

20. 共同保管と共同取得計画を通じて不要な重複を回避

21. 共同学習を支援するための図書館スペースの再編成

出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011.

調査からの重要な教訓（5/6）

IV. 図書館員の再配置

22. 目録は、もはや図書館ごとに行う活動ではない

23. 階層的レファレンスサービスにより図書館員の手間を省く

24. 減少するニーズへの供給に適合するクラウドソーシング・レファレンス

25. 図書館とIT/部門との統合の成功は専門知識と目標との適合による

出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011.

調査からの重要な教訓（6/6）

26.「Library 101（ライブラリ101）」を超えた情報リテラシーを必要とする学生

27. エンベディッド（embedded）・ライブラリアンとエンベディッド（embedded）・サービスが学生と教員（ファカルティ）にオンデマンドのオンライン・ガイダンスを提供

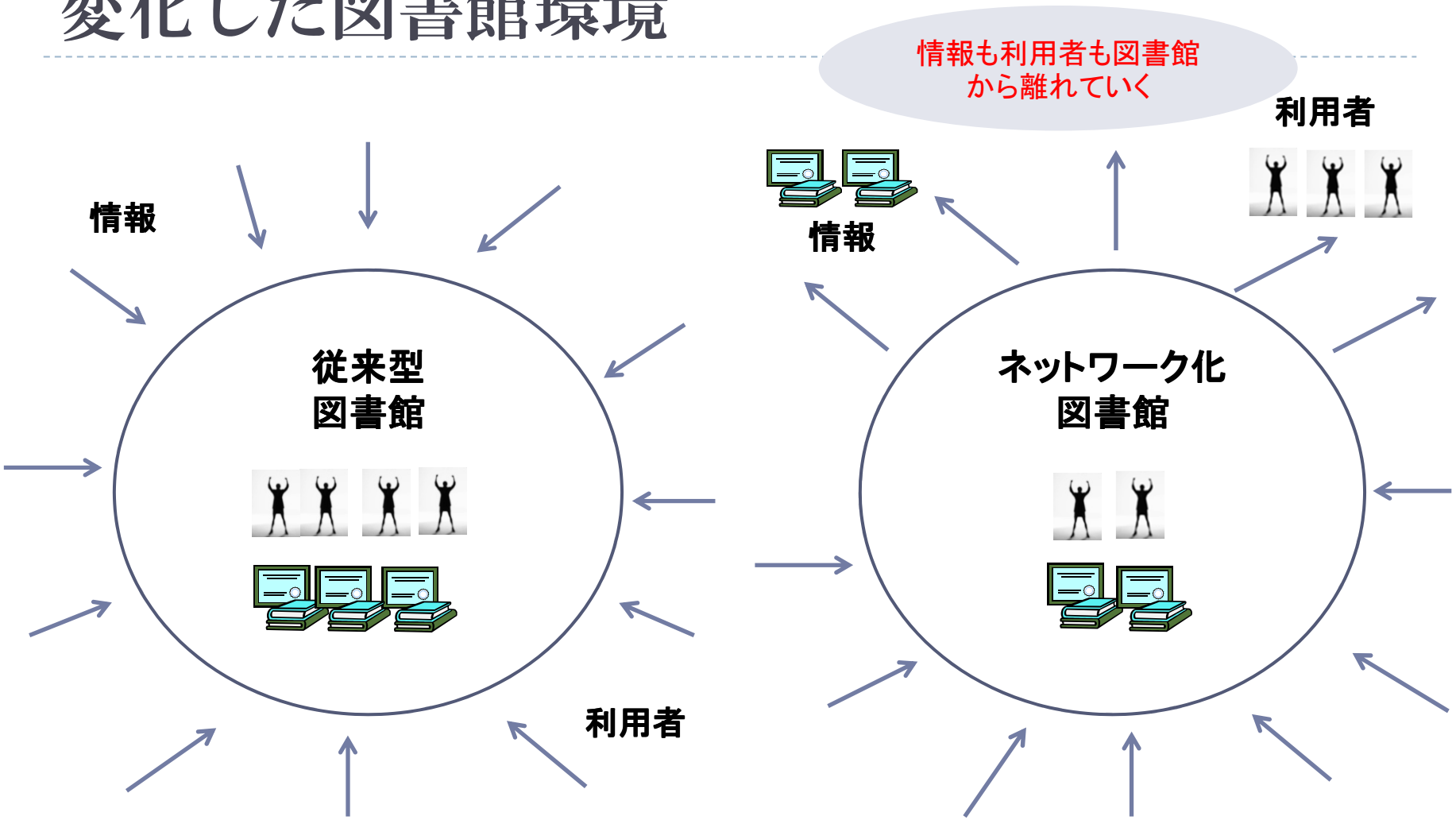
28. データ管理基準には新たな情報インフラが必須である

29. ターゲットを絞った専門家が専門知識と柔軟性を提供する

30. 出版業者との提携で特別コレクションに新たな息吹を吹き込む

出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011.

変化した図書館環境

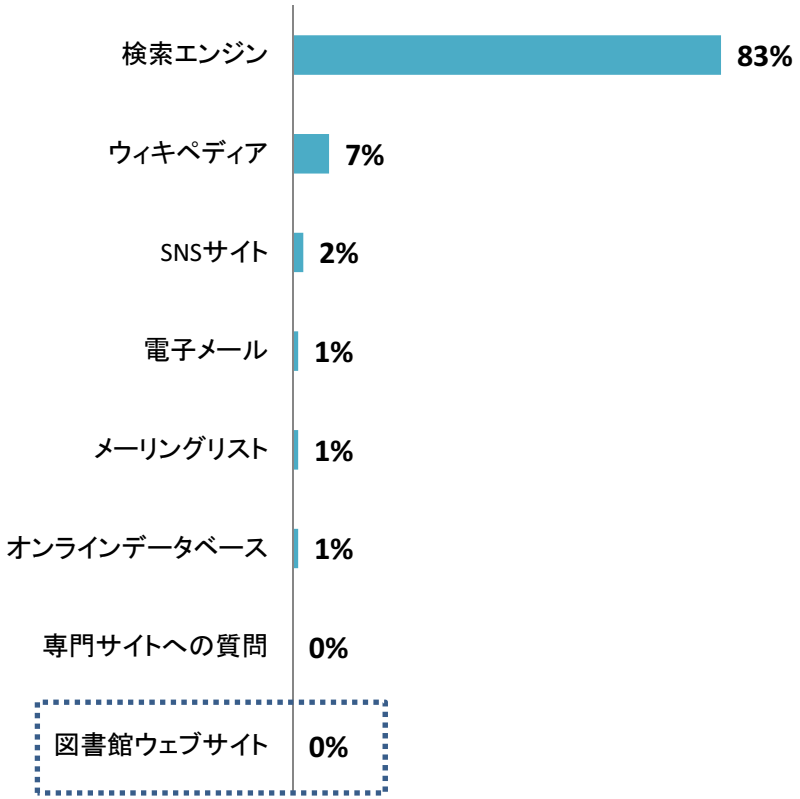


出典：*College & Research Libraries*. November 2002. p.500.

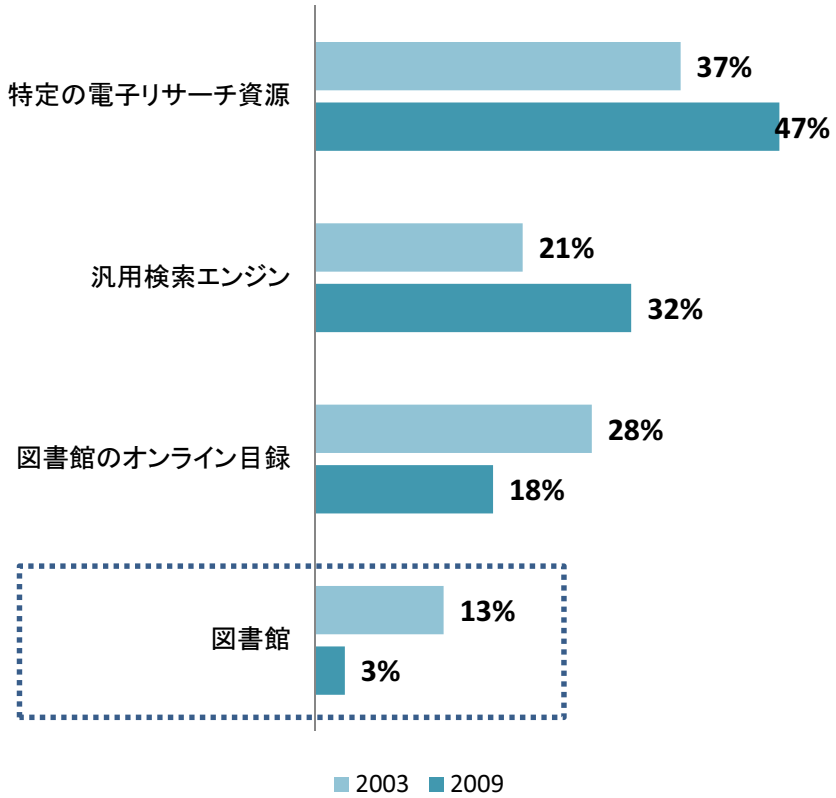
利用者は情報探索を何から始めるか？

図書館は最後・最少

学生 N=2,229



教員 N=3,025

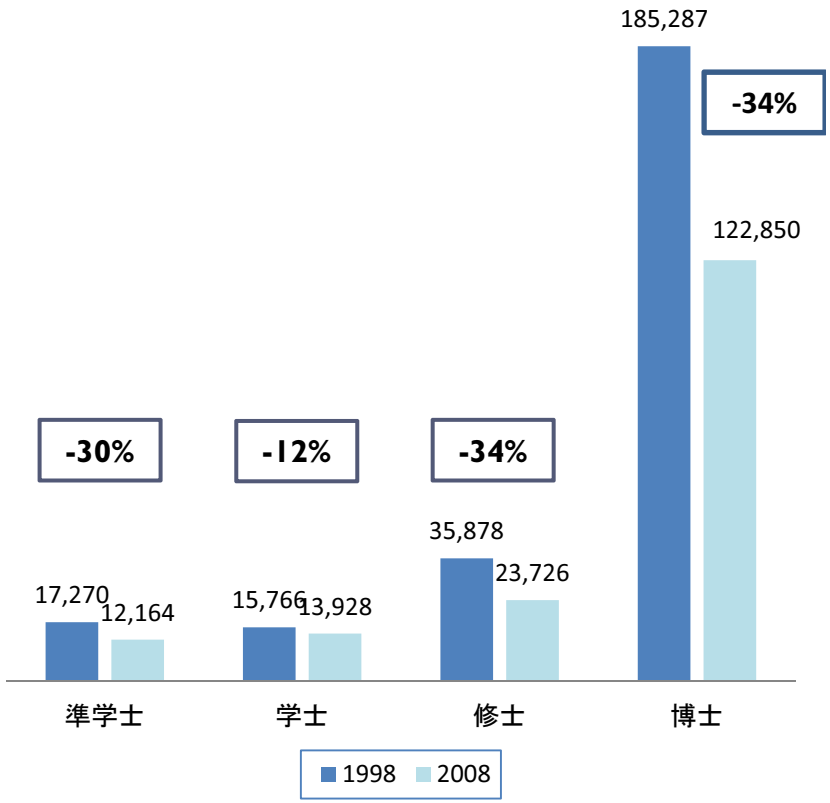


出典：*Perceptions of Libraries.* OCLC, 2010.他

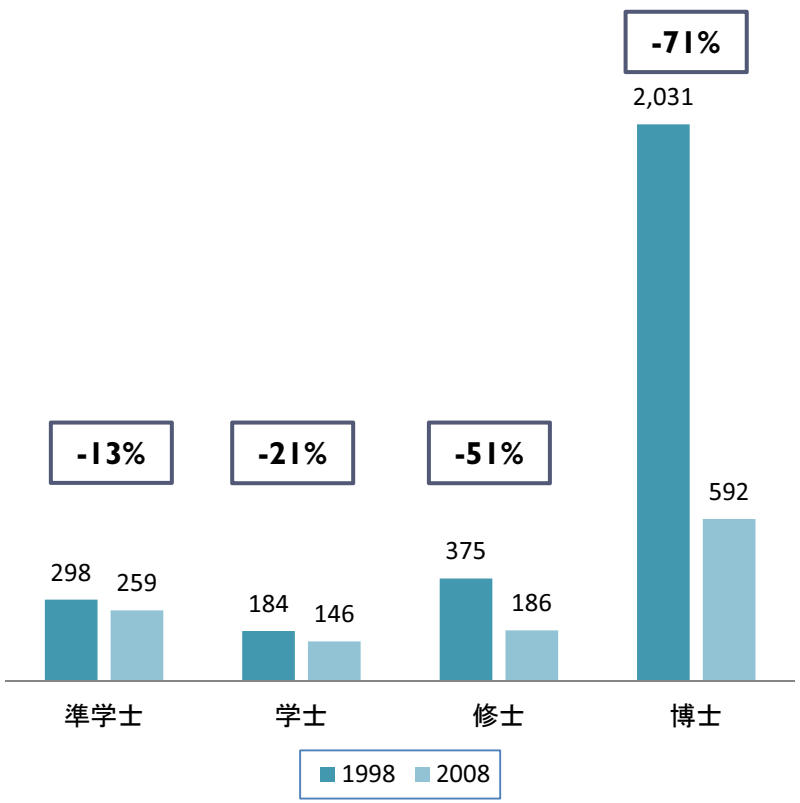
北米大学図書館の貸出数とレファレンス件数

10年前に比べて激減

貸出数（一般コレクション平均）



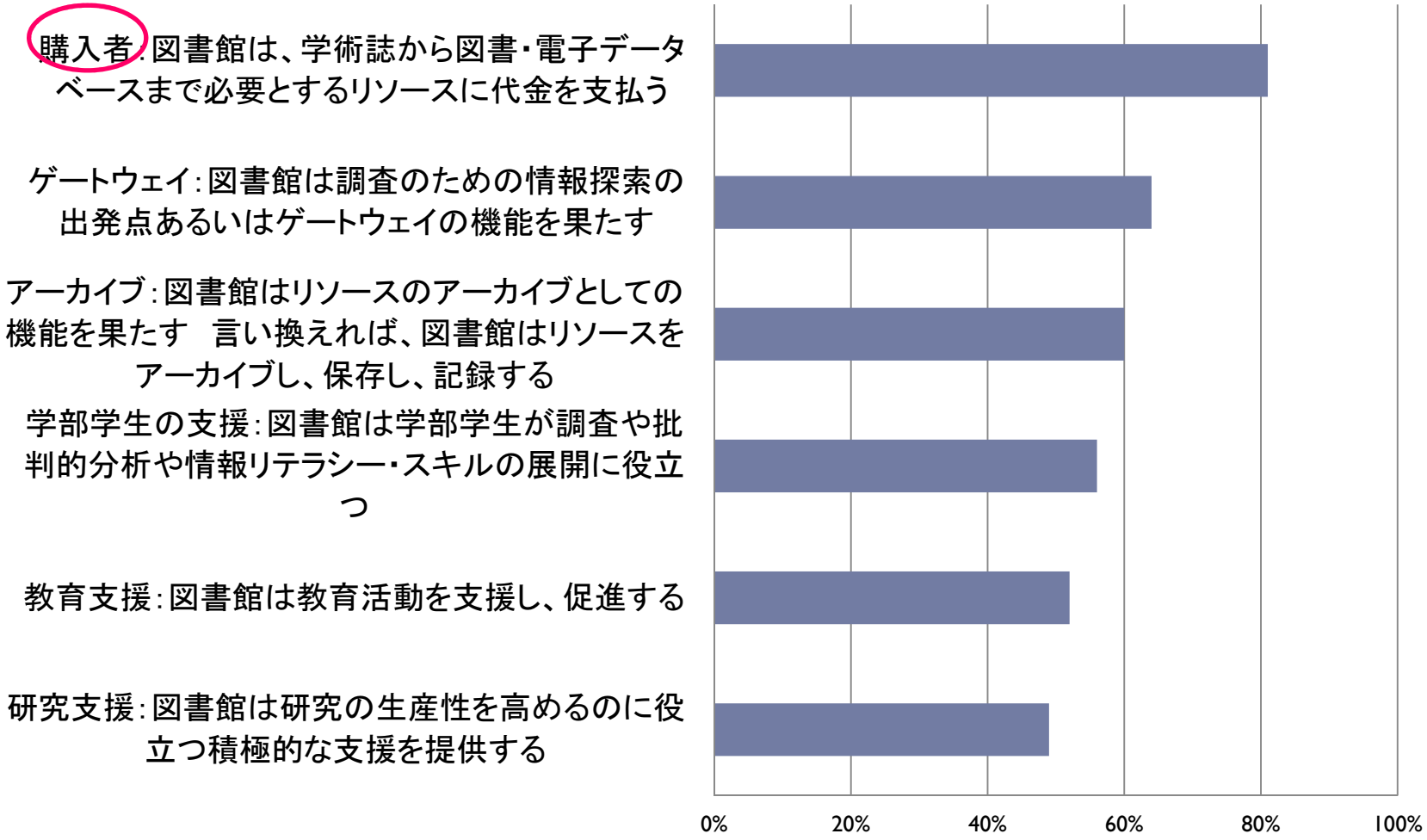
レファレンス件数（週平均）



出典：*ACRL's 2008 Academic Library Trends & Statistics*, 2008.

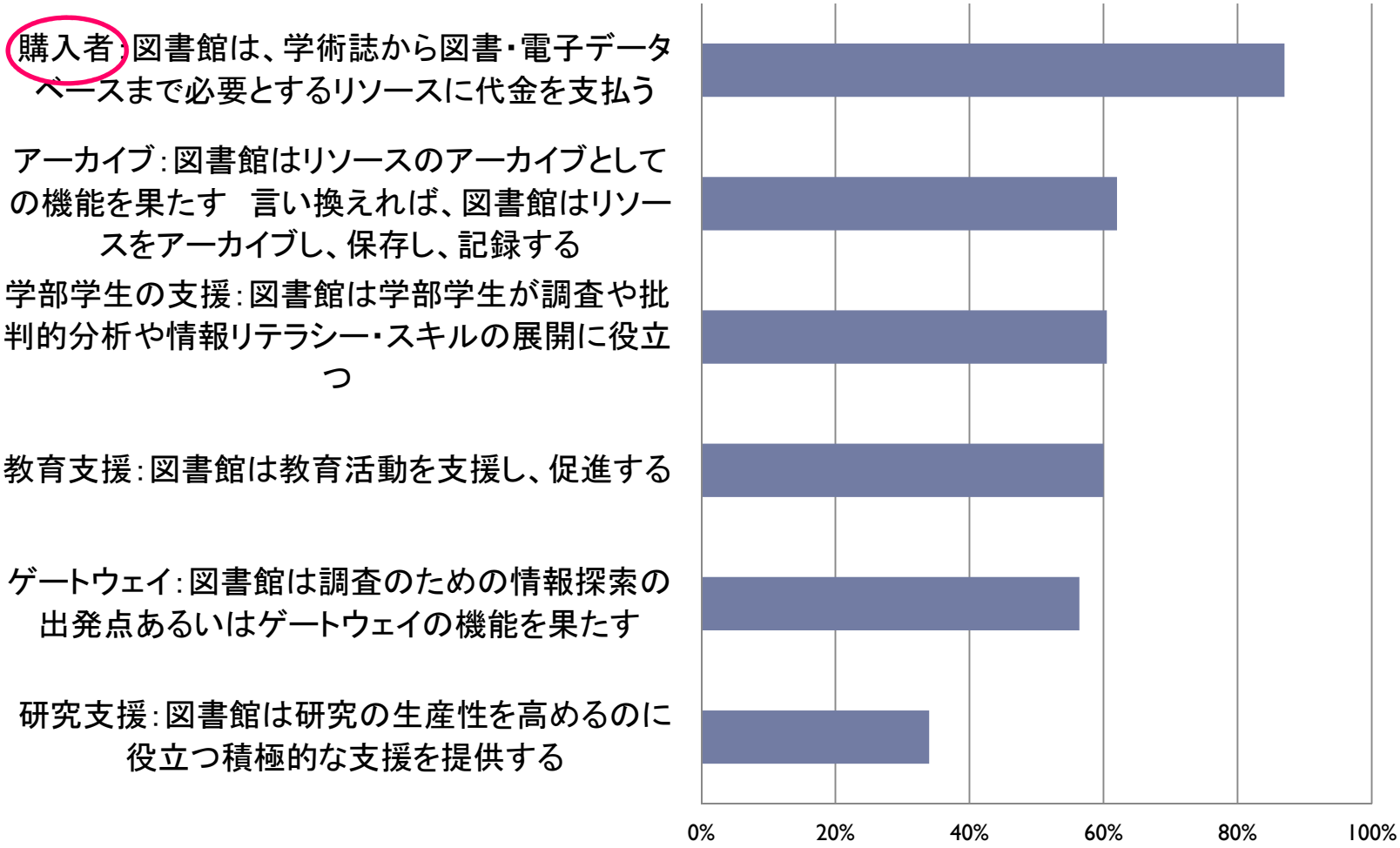
大学教員・研究者の意識（米国・英国）

米国：大学図書館の非常に重要な役割　N=5,261



出典：*Ithaka S+R US Faculty Survey 2012*. April 8, 2013. p.67.

英国：大学図書館の非常に重要な役割　N=3,498

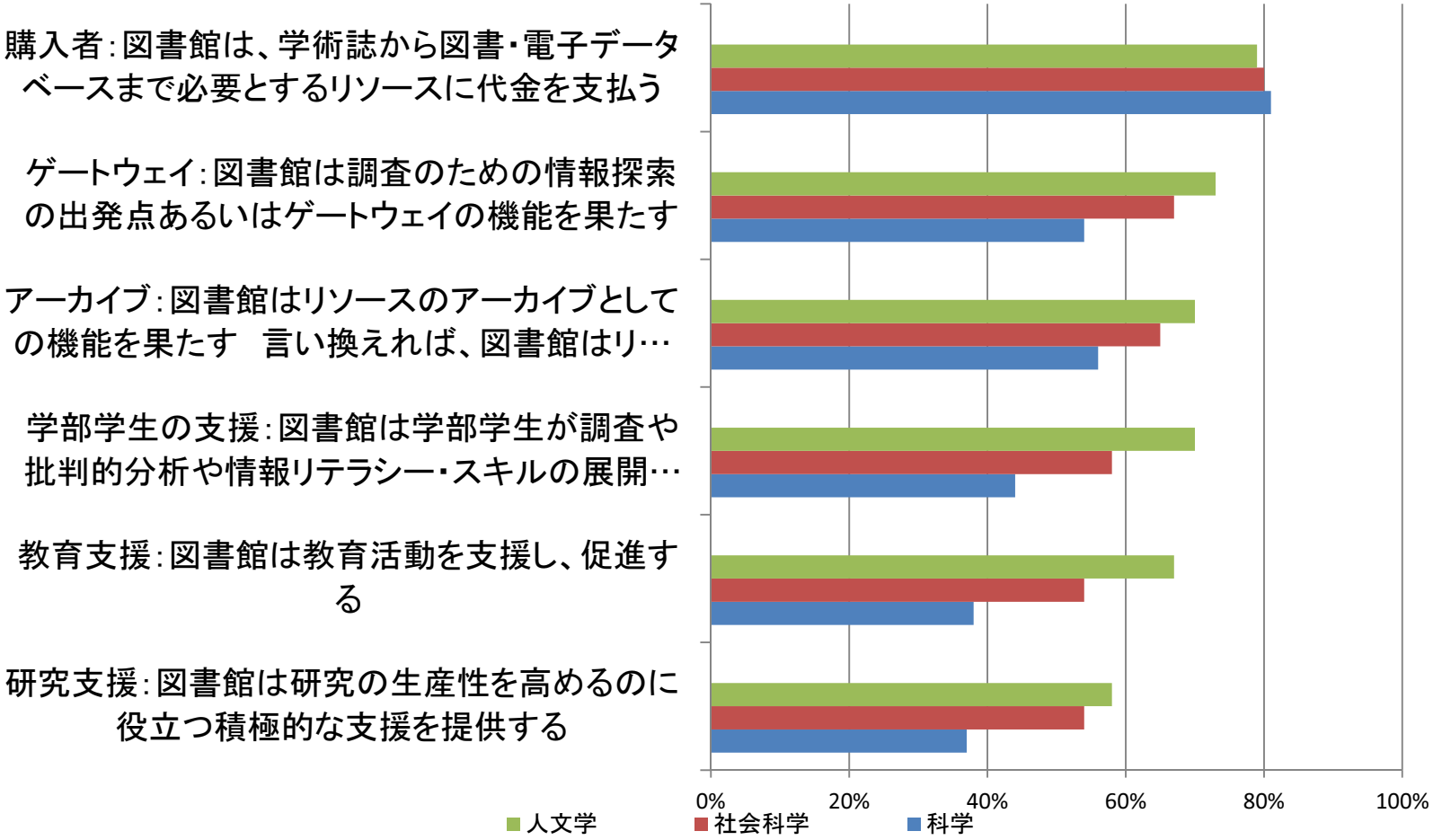


出典：*RLUK Survey of Academics 2012.* May 16, 2013. p.79.

大学教員・研究者の意識（米国・英国）

米国：大学図書館の非常に重要な役割（分野別）

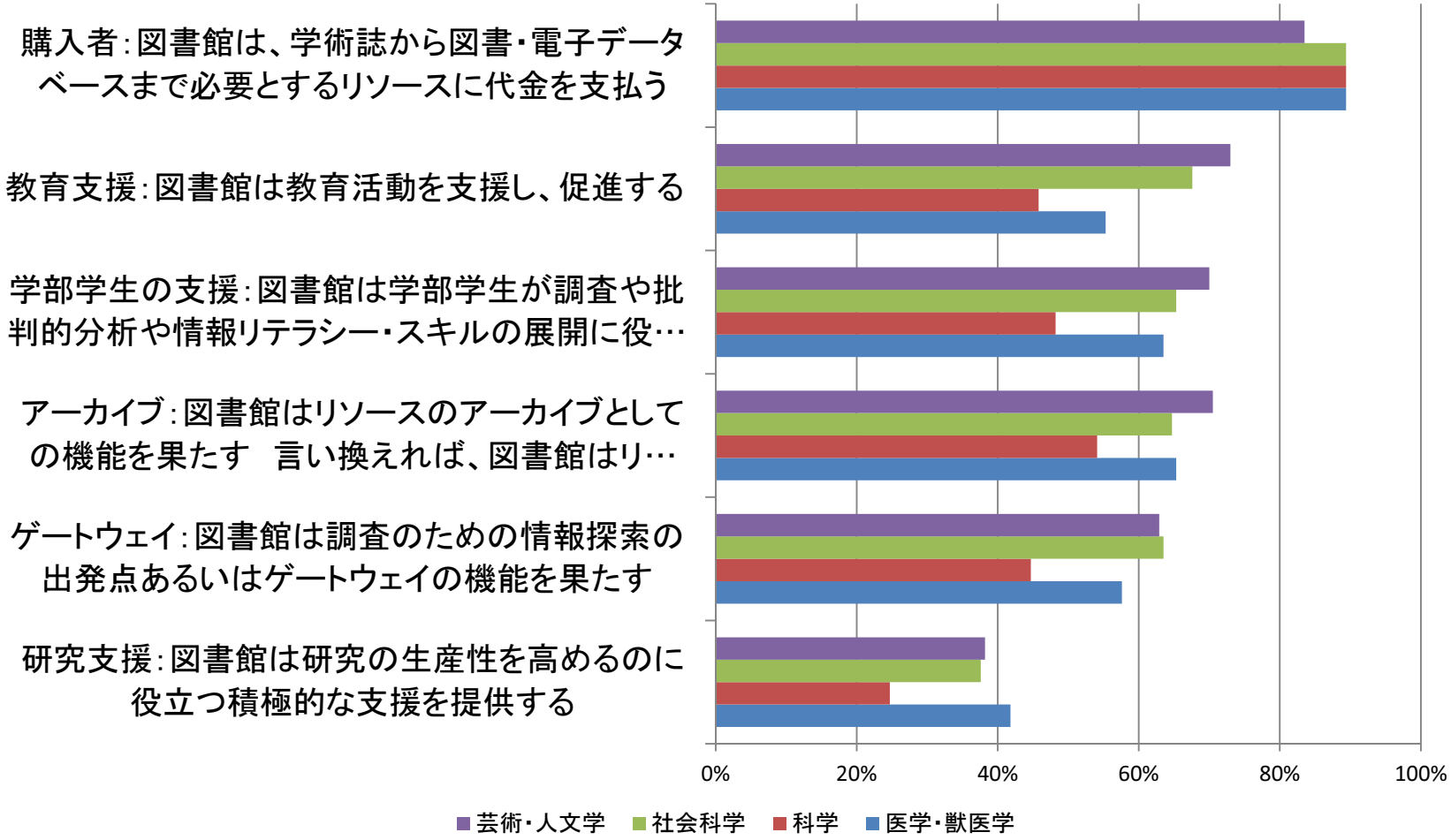
N=5,261



出典：*Ithaka S+R US Faculty Survey 2012*. April 8, 2013. p.71.

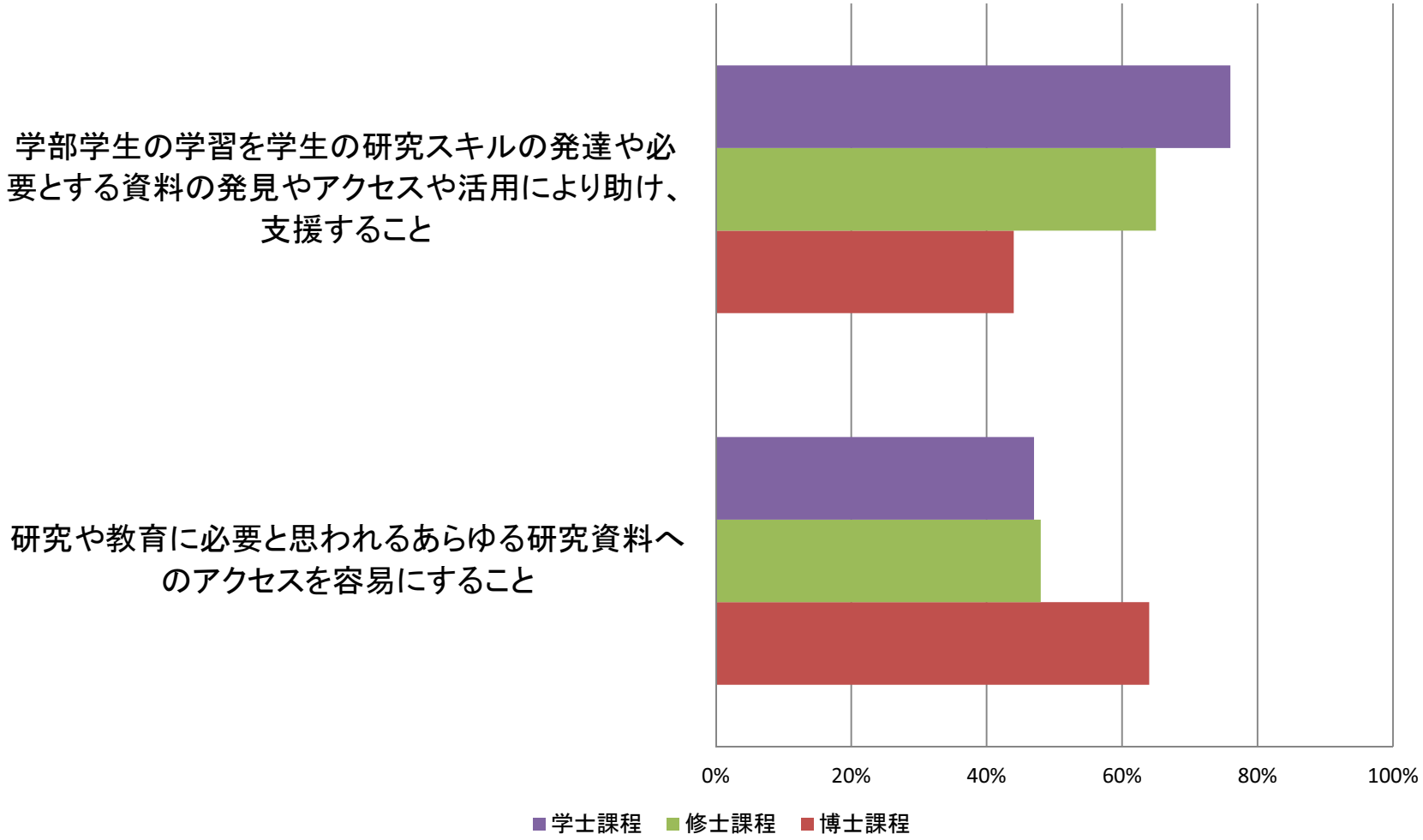
英国：大学図書館の非常に重要な役割（分野別）

N=3,498



出典：*RLUK Survey of Academics 2012.* May 16, 2013. p.80.

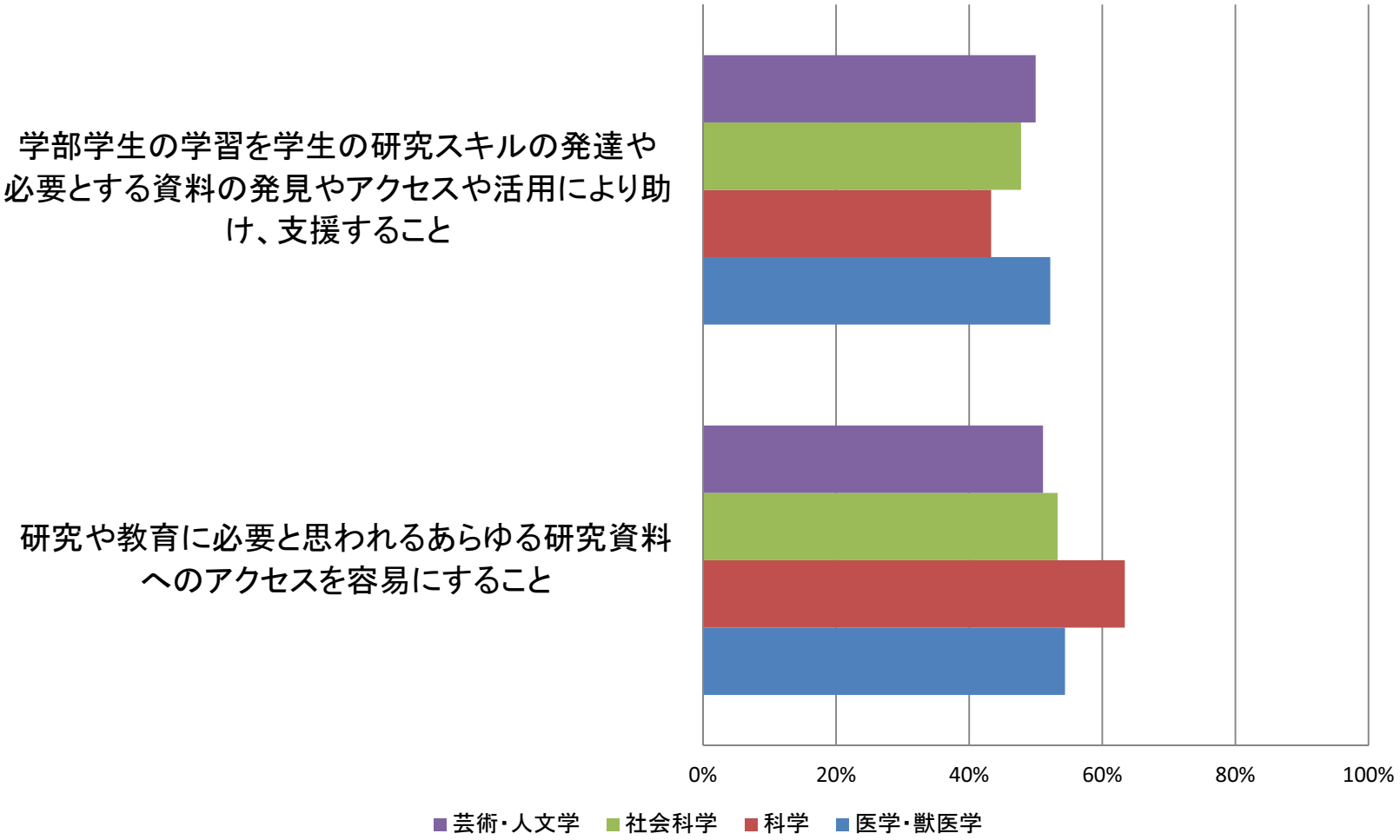
米国：回答者が強く同意した大学図書館が果たすべき主な役割（大学のタイプ別） N=5,261



出典：*Ithaka S+R US Faculty Survey 2012*. April 8, 2013. p.73.

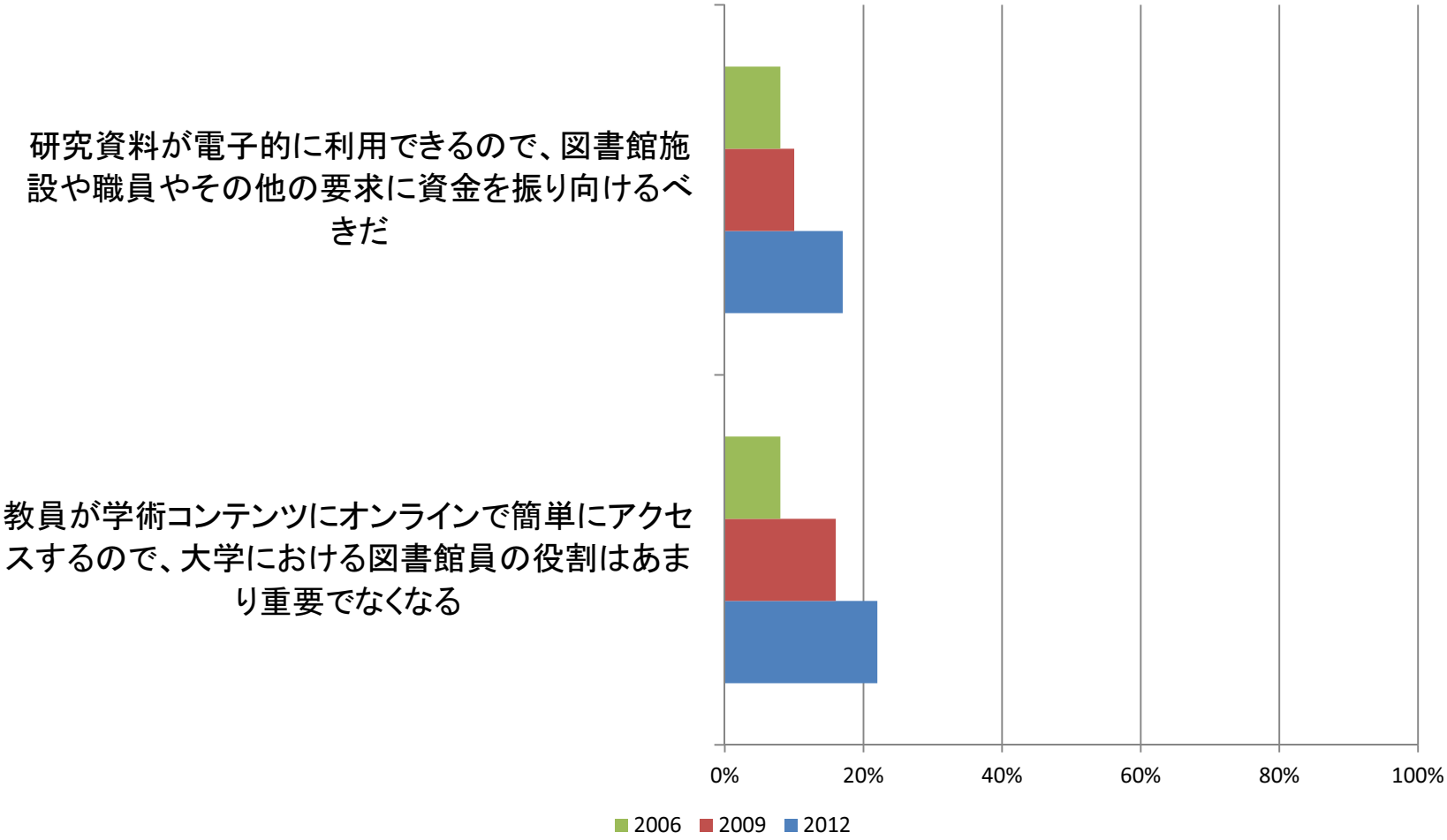
大学教員・研究者の意識（米国・英国）

英国：回答者が強く同意した大学図書館が果たすべき主な役割(学問分野別) N=3,498



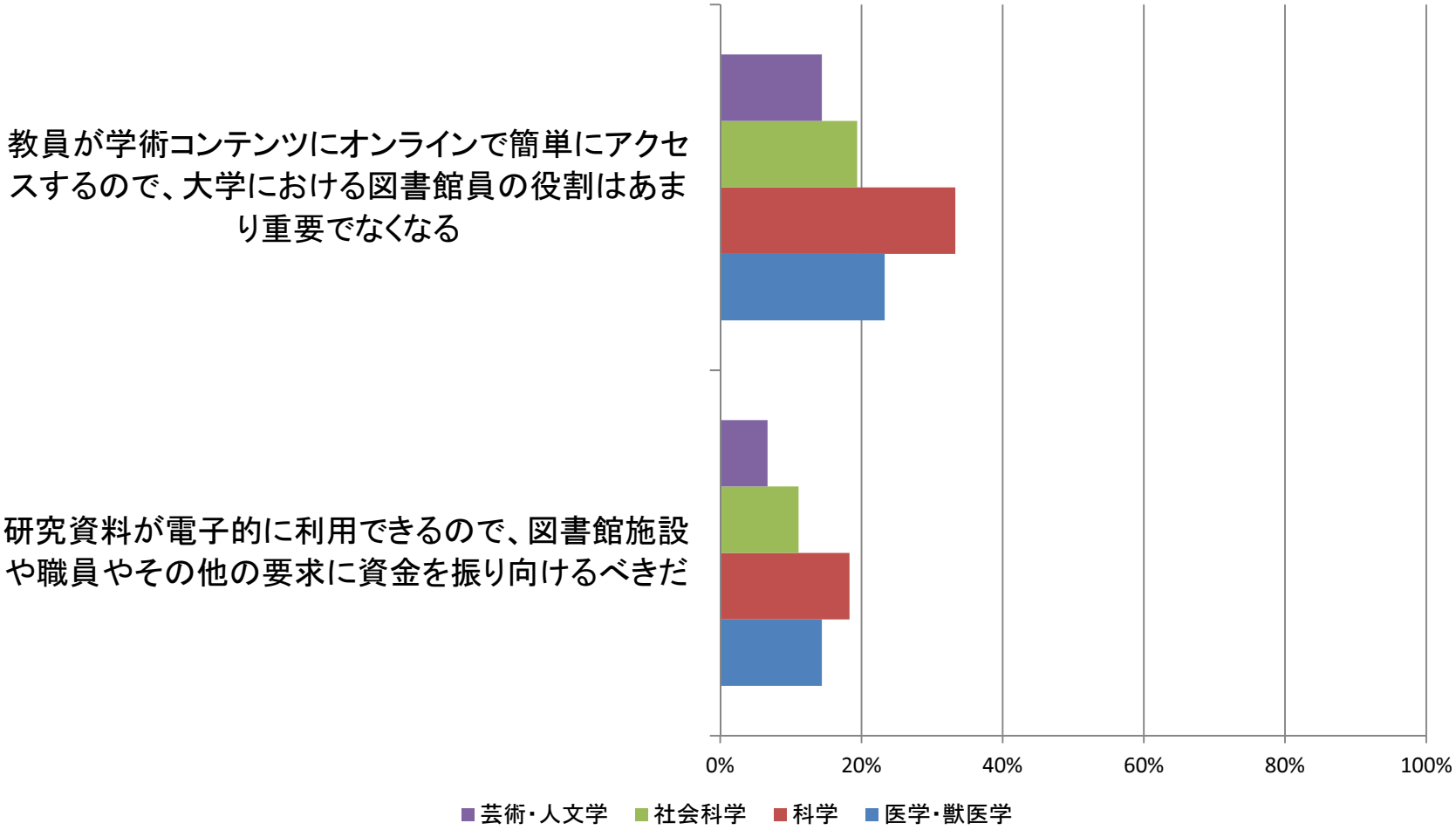
出典：*RLUK Survey of Academics 2012.* May 16, 2013. p.83.

米国：回答者が強く同意した大学図書館の変わりゆく価値（調査時期別） N=5,261



出典：*Ithaka S+R US Faculty Survey 2012*. April 8, 2013. p.75.

英国：回答者が強く同意した大学図書館の変わりゆく価値（学問分野別） N=3,498



出典：*RLUK Survey of Academics 2012.* May 16, 2013. p.86.

大学管理者が予測する大学図書館の未来

- 大学図書館は5年以内に電子リソースに重点的に取り組むだろう
- 大学のコンピューティング・サービスと図書館は合併するだろう
- 新しいものを作り出さない図書館員は配置転換されるか，解雇されるだろう
- 図書館は積極的に利用される資料のみ保管するだろう
- 図書館はコレクションの規模と職員配置の両方とも小さくなり，資金も図書館から大学のより重大で生産的な分野に振り向けられるだろう

出典：Fister, Barbara. *Academic Libraries, a view from the administration building*. Library Journal, May 2010.

本日の講演の流れ

- はじめに
- 図書館の認識（機能）モデル
- 大学を取り巻く環境の変化と図書館
- 大学図書館の機能再考

  学習・教育支援：学習支援環境整備についての課題／学習環境充実のための学術情報基盤の整備

  研究支援：図書館の価値／大学院生の研究活動／化学者／スキル・ギャップ／見直し
- 大学図書館の構成要素とそれらの変化
- おわりに

教育・学習支援

学修支援環境の整備についての課題

（学修支援環境の整備についての課題）

第二の点は、主体的な学修の確立の観点から、学生の学修を支える環境を更に整備する必要があることである。学長・学部長アンケートでは、「きめ細かな指導をサポートするスタッフが不足」しているという課題意識が強い。その他、専任教員数の充実、**主体的な学修を支える図書館の充実や開館時間の延長**、学生による協働学修の場や学生寮等キャンパス環境の整備、奨学金の充実など、様々な意見や要望が寄せられた。

（速やかに取り組むことが求められる事項）

各大学における全学的な教学マネジメントの下での改革サイクルの確立を促進するため、教学に関する制度の見直しを図るとともに、基盤的経費や国公私立大学を通じた補助金等の配分に当たっては、例えば、組織的・体系的な教育プログラムの確立など、十分な質を伴った学修時間の実質的な増加・確保をはじめ教学上の改革サイクルの確立への取組状況を参考資料の一つとする。

その際、TA等の教育サポートスタッフの充実、**学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化**、ICTを活用した双方向型の授業・自修支援や教学システムの整備など、学修環境整備への支援も連動させながら充実する。

出典：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」平成24年8月　中央教育審議会（答申）

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（1/7）

1. 背景
- 教育スタイルの変化
- 大学教育における質的転換の必要性
- 関連する提言や政策の方向性

2. 学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方

a. 学術情報基盤の意義

b. 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備の現状と課題

ｉ）コンテンツ
- コンテンツの状況・電子化
- 教材・授業等の電子的利活用
- オンライン教育の体制整備
- データの利活用・流通の促進
- 適切なコンテンツの管理と空間の確保

ii）学習空間

iii）人的支援
- 専門的人材の育成

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（2/7）

2. 学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方

c. 更なる学修環境充実のために推進すべき取組

ⅰ）基盤を生かすための教員の意識改革等

ⅱ）基盤確立のための運営体制の強化

・図書館の機能強化

・組織運営体制の見直し

・大学等の組織間連携による基盤の充実

ⅲ）教育内容の標準化と効果の分析

・学修の質保証のための標準化・体系化

・教育・学習効果の分析・検証

3. 今後の展開における考え方

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（3/7）

２．学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方

b.学修環境充実に関わる学術情報基盤整備の現状と課題

○ 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備については、主に、ⅰ）コンテンツ、ⅱ）学習空間、ⅲ）人的支援の三つの要素に整理することができ、それらの有機的な連携が重要である。

（コンテンツの状況・電子化）

○ 近年、学術雑誌や洋書については電子化が進んでいるが、和書の電子書籍での提供はビジネスモデル構築の必要性などによりあまり進展していない。電子的なコンテンツの増加は、学生に多くの学術書に接する機会を与えることから、関係者が連携して今後一層推進することが望まれる。
蔵書の電子的利活用に関しても、大学が連携して、効果的に取り組む必要がある。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（4/7）

（適切なコンテンツの管理と空間の確保）

○ 図書館におけるコンテンツの整理・効果的な保存は、アクティブ・ラーニングのための空間を確保する上でも、重要な課題であり、海外の大学図書館では、電子書籍の導入や学術情報のデジタル化の促進により、情報資源の効率的な利活用への取組が進みつつある。我が国においても、以下に示す方法などを参考に、取組を検討することが考えられる。

① 電子的保存・流通への対応と合わせて、各資料を紙媒体で維持・提供することの必要性

② 蔵書を集約化する自動書庫の導入や大学単独もしくは共同で遠隔地に保存書庫の設置

③ 大学内における中央図書館と部局図書館、大学外に関しては国立国会図書館を含めた複数の大学図書館の間で、紙媒体の重複保存を抑制するシェアード・プリントの導入

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（5/7）

ⅱ）学習空間

○ ラーニングコモンズに関する整備は進んできているが、その機能については、多様な学習活動に対応可能な空間を用意するとともに各空間の開放性、透明性を高くすることが重要である。熱心に学習している姿が他の学生の学習意欲を刺激し、さらに、教員の教育姿勢に対しても好影響を与え、FDとして寄与する。

○ 設置場所については、図書館を中心に設けるのが適切であるが、図書館と連携させつつ、部局等において展開することも想定される。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（6/7）

ⅲ）人的支援

○ 学生による主体的学習の効果を高めるためには、ラーニングコモンズにおいて、空間等の環境整備に加えて、大学院生、図書館員や教員等による学生を支援する体制の構築が不可欠である。学生同士が支援し合うピアチュータリングも、質保証を図りつつ促進することが望ましい。

（専門的人材の育成）

○ 図書館の果たす役割の変化に伴い、様々な学修を支援する活動の企画・実施を担当する専門職として、教員や他の職員とも異なる中間職的な人材が必要になる。専門職は教員と図書館員との協力の過程を通じて、図書館員の中から育成されるようなシステムを構築する必要がある。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（7/7）

c. 更なる学修環境充実のために推進すべき取組
ⅱ）基盤確立のための運営体制の強化

（図書館の機能強化）
○ 学修環境充実において、図書館の効果的活用と機能強化は喫緊の課題である。図書館が教育面でより積極的に関与していく観点から、教材等の資料作成を支援していく体制を構築すべきである。学修環境として刺激的な空間を提供するだけでなく、学内の教員に授業に対する新しいアイデアの構築を促すことも期待される。

研究支援

研究と研究者に対して図書館の持つ価値の全体マップ（1）

No.	重要なメッセージ	図書館の行動と特性	最終的な便益
1	**素晴らしい図書館はトップレベルの研究者の雇用と確保に役立つ**	・徹底したサービス文化 ・しっかりした研究資料 ・誰でもが利用できる研究リソースの目録	・トップレベルの研究者の雇用と確保
2	**図書館は研究者が研究助成の獲得と研究契約に役立つ**	・高い専門知識 ・情報スキルや物事をまとめていく手腕 ・徹底したサービス文化	・研究収入の増加
3	**図書館は新しいテクノロジーや学術情報流通の新しいモデルを促進し，活用する**	・研究やコミュニケーションについての専門性 ・徹底したサービス文化	・より効率的な研究 ・研究者のより高い満足度 ・より質の高い研究
4	**機関リポジトリは研究機関の可視性を高め，研究を行っている機関の評判を高める**	・機関リポジトリの管理	・より質の高い研究 ・研究収入の増加 ・研究成果の潜在的な読者層の増加
5	**図書館の外部への関わりが機関全体の活動の改善に貢献する**	・外部に関わる図書館 ・研究機関の中心としての公平な位置 ・情報スキルや物事をまとめていく手腕	・より質の高い研究 ・研究収入の増加

出典：*The Value of Libraries for Research and Researcher*. RIN,/RLUK, March 2011. p.2

研究と研究者に対して図書館の持つ価値の全体マップ（2）

No.	重要なメッセージ	図書館の行動と特性	最終的な便益
6	**図書館の主題スペシャリストが研究部門と連携して活動する**	・高い専門知識 ・徹底したサービス文化 ・先を見越した情報スペシャリスト	・研究成果の増大 ・より効率的な研究 ・研究者の満足
7	**図書館サービスの価値を強化するため研究者と連携する**	・外部に関わる図書館 ・徹底したサービス文化	・研究者の満足 ・より質の高い研究 ・より効率的な研究
8	**[図書館の]専用スペースは研究者に対するより優れた研究環境を提供する**	・柔軟性のある物理的スペース ・しっかりした研究資料	・研究者のより高い満足度 ・より高い質の研究 ・研究成果の増大
9	**質の高い研究コンテンツへの使いがってのよいアクセスは依然として優れた研究の基盤である**	・しっかりした研究資料 ・情報スキルや物事をまとめていく手腕 ・高い主題知識	・より効率的な研究 ・より質の高い研究
10	**図書館は学会や学問の価値を物理的に表現したものである**	・知識の故郷としての図書館に対する遺産的認識	・よりやる気のある研究者

出典：*The Value of Libraries for Research and Researcher*. RIN,/RLUK, March 2011. p.2

団塊ジュニア世代（Generation Y）の博士課程の大学院生の研究行動

70機関17,000人を対象とした調査

- 一次研究資料よりも二次研究資料にますます依存している
- 購読ベースのリソースに対する認証やライセンスの制限が問題となっている
- オープンアクセスと著作権が混乱を招いている
- デジタル情報環境下で革新的なテクノロジーの潜在的能力を最大限に活用するための訓練や知識が不十分である

出典：*Researchers of Tomorrow.* June 2012. p.5-7.

化学者が便益を受けるべきサービス領域

約60人へのインタビュー調査

- データ管理と保存

  研究グループの構成員が収集し，作成したデータを管理・蓄積・保存するための広範な訓練を受けていない

- 情報発見

  新たに出現した極めて効果的な検索ツールがあるにも関わらず，最新の文献の追跡について心配している

- 研究成果の配布と学術コミュニケーション

  研究成果のオンライン・リポジトリへの投稿や新しい出版モデルの導入が遅い

出典：*Supporting the Changing Research Practices of Chemists. Ithaka S+R,* 2013. p.5.

図書館員が識別している９つのスキル・ギャップ　RLUK加盟館22機関の169人を対象した調査

- 研究成果の保存
- データ管理とキュレーション
- 資金助成者の多岐にわたる義務化の遵守
- データ操作ツール
- データマイニング
- メタデータ
- プロジェクト記録の保存
- 研究助成金の源泉
- メタデータ･スキーマの開発や標準や実務についての助言

出典：*Re-skilling for Research.* RLUK, January2012. p.3.

研究支援内容の見直し（キングス・カレッジ・ロンドン）

従来の支援内容

- 訓練と対面サポート
- 館（やかた）としての図書館スペース
- 引用文献分析
- ILLとドキュメント・デリバリー
- コレクションの開発と管理

新たな支援内容

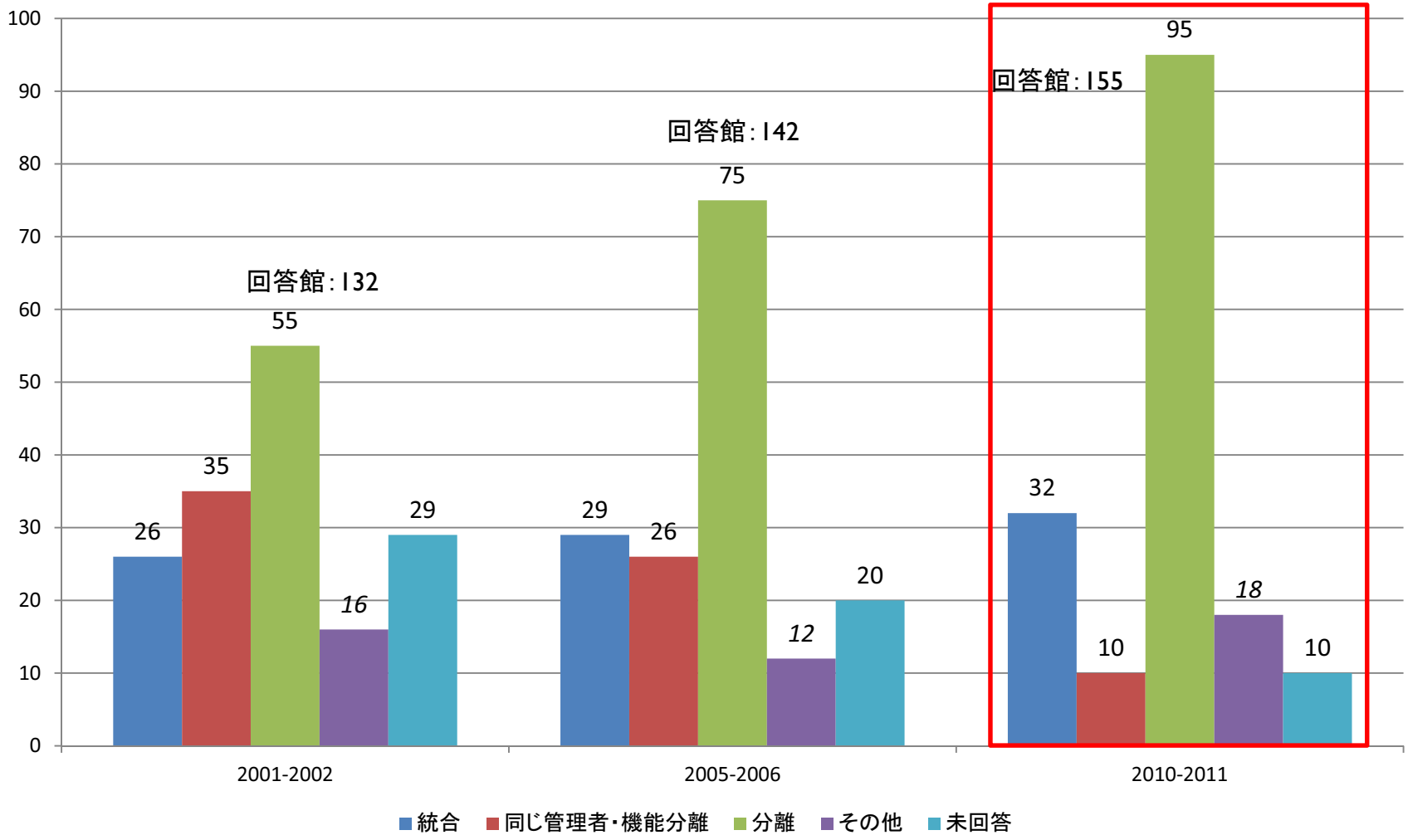
- 機関リポジトリと研究者総覧（CRIS）との連携
- 大学の研究ポータルの支援
- ゴールドOAを支援するAPC（論文掲載料金）の管理
- 研究データ

出典：*Reshaping Library Support for Research at King's College London.* 2012.

本日の講演の流れ

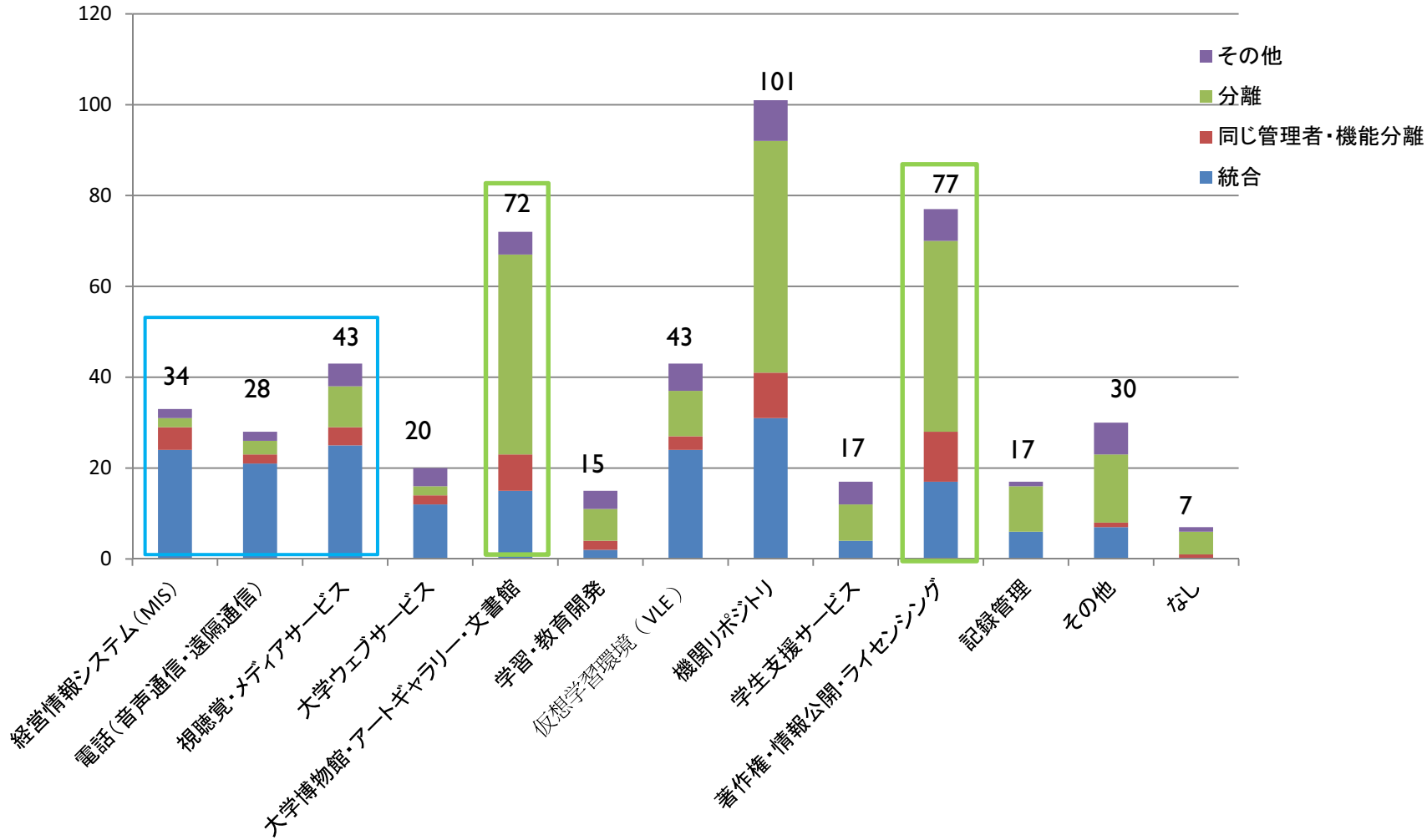
- はじめに
- 図書館の認識（機能）モデル
- 大学を取り巻く環境の変化と図書館
- 大学図書館の機能再考
- 大学図書館の構成要素とそれらの変化
  組織／サービス／コレクション／スペース／職員
- おわりに

組織　英国大学図書館の組織の統合・分離



出典：*SCONUL Annual Library Statistics, 2001-2002, 2005-2006, 2010-2011.*から作成

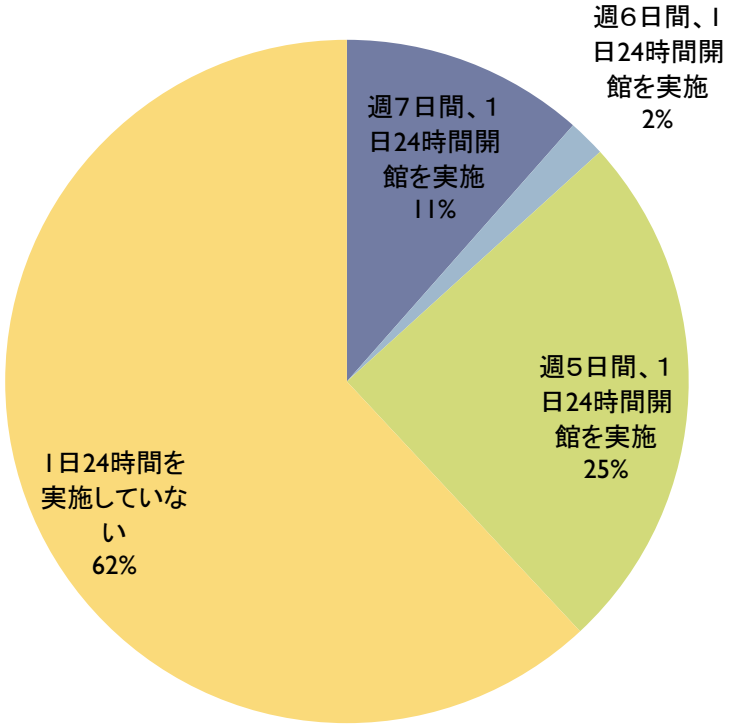
サービス　英国大学図書館が管理しているサービス　N=155



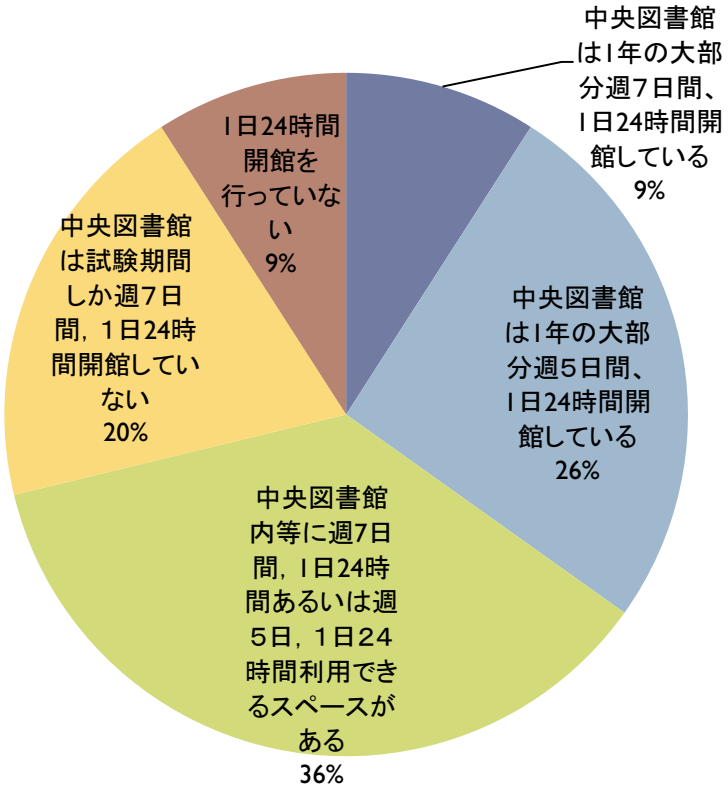
出典：*SCONUL Annual Library Statistics, 2010-2011*. 2008. p.12-15.から作成

サービス　開館時間：北米研究図書館協会加盟館

2008年7月　113館[1)]



2011年1月　66館[2)]



出典：1) Discoll, L. and Mott, A. *After midnight.* ARL, 2008.　2) RLI 277, December 2011.

サービス 北米大学図書館における図書館サービスポイントや分館の変更（1/4） N=59

【概要】

- 過去3年間の本館または分館又は分館のサービス提供システムの追加，閉鎖，統合について調査
- 52館（88%）が変更あり、7館（12%）が変更なし，と回答
- 47館がサービスポイントに149の変更あり，27館が分館に53の変更あり，と回答
- サービスポイントを変更した館の内訳は，統合（56），再配置（53），閉鎖（27），追加（13）
- 分館を変更した館の内訳は，閉鎖（27），統合（11），再配置（9），追加（6）

出典：SPEC Kit 327: *Reconfiguring Service Delivery*. ARL, 2011. p12-14.

北米大学図書館における図書館サービスポイントや分館の変更（2/4）　N=59

- 追加

  ①統合サービスデスク（レファレンス＋貸出その他）

  ②インフォメーション・コモンズ

  ③統合・中央研究デスク

  ④バーチャル化
- 閉鎖

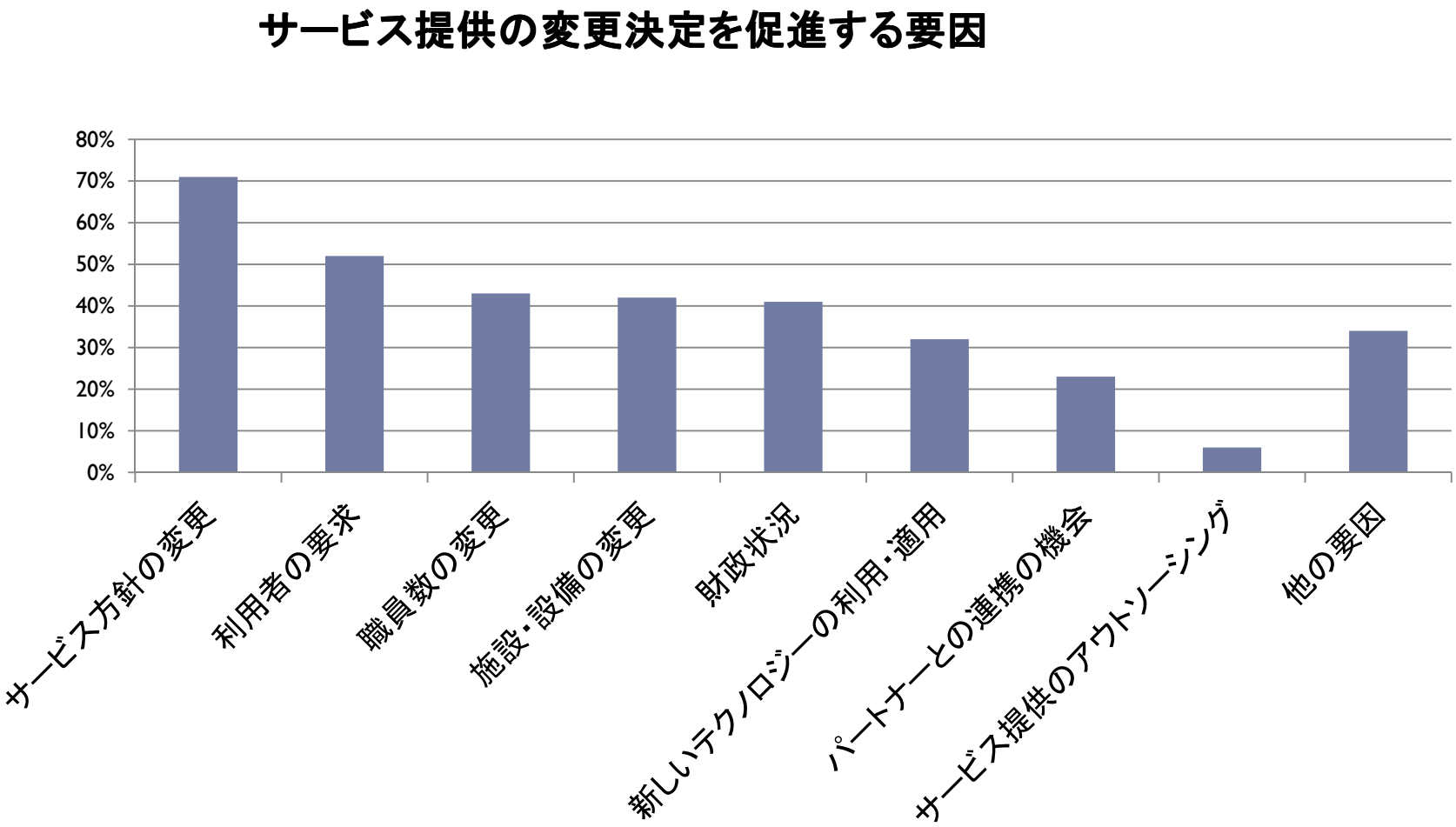
  ①レファレンスサービスデスク

  ②サービスデスクや研究デスク

  ③科学分館
- 統合（サービスポイント）

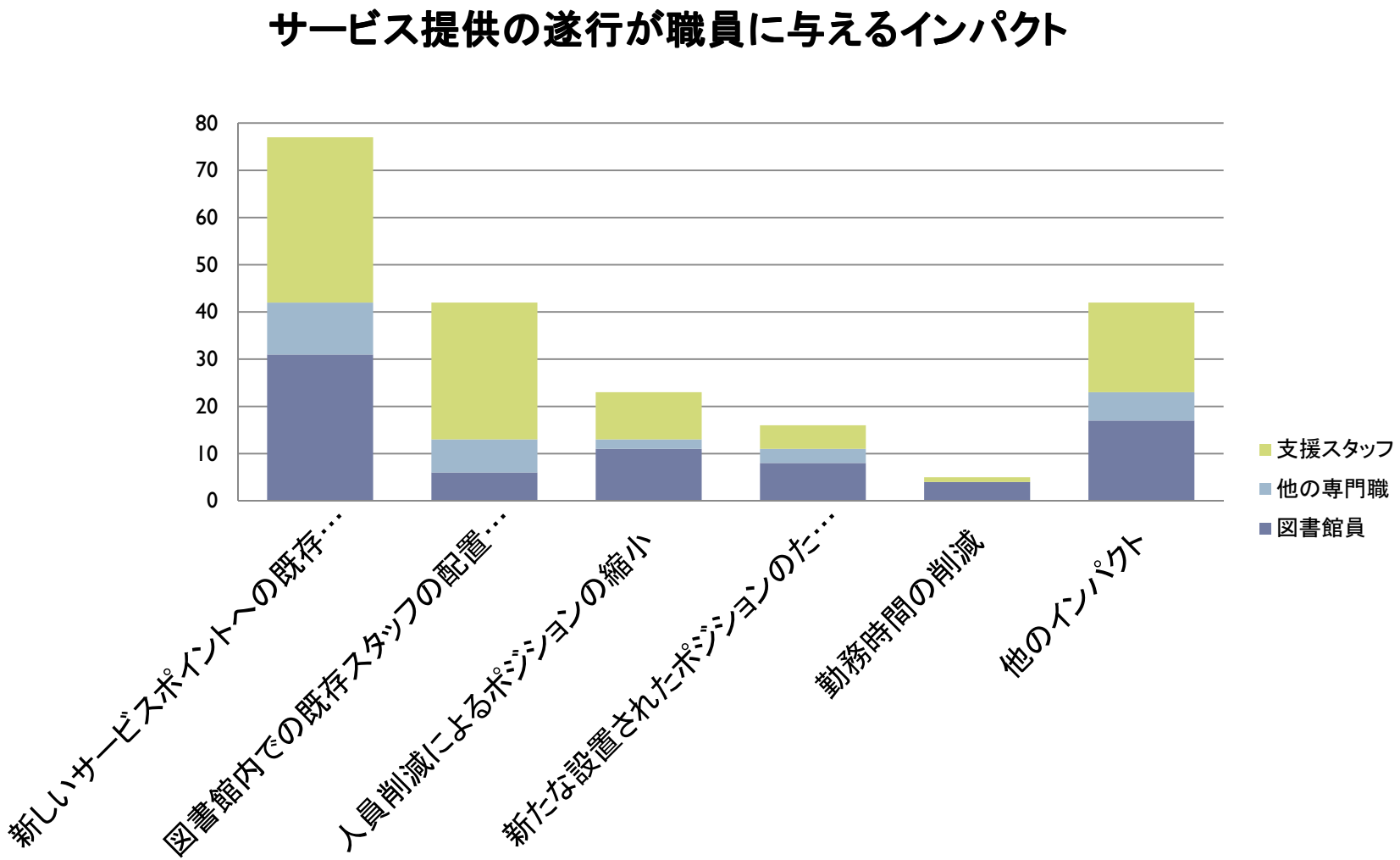
出典：SPEC Kit 327: *Reconfiguring Service Delivery*. ARL, 2011. p12-14.

北米大学図書館における図書館サービスポイントや分館の変更（3/4）　N=59



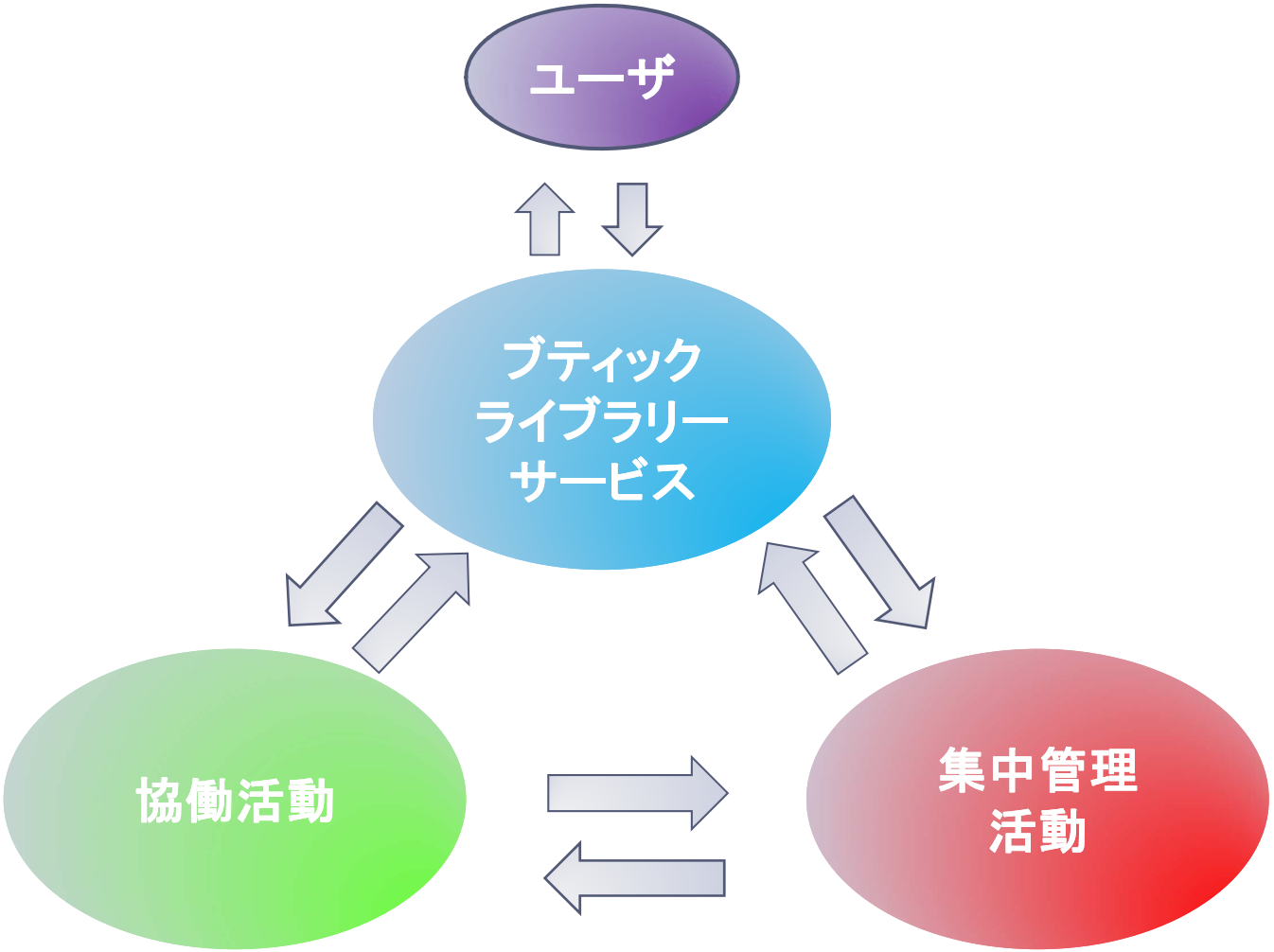
出典：SPEC Kit 327: *Reconfiguring Service Delivery*. ARL, 2011. p15.

北米大学図書館における図書館サービスポイントや分館の変更（4/4）　N=59



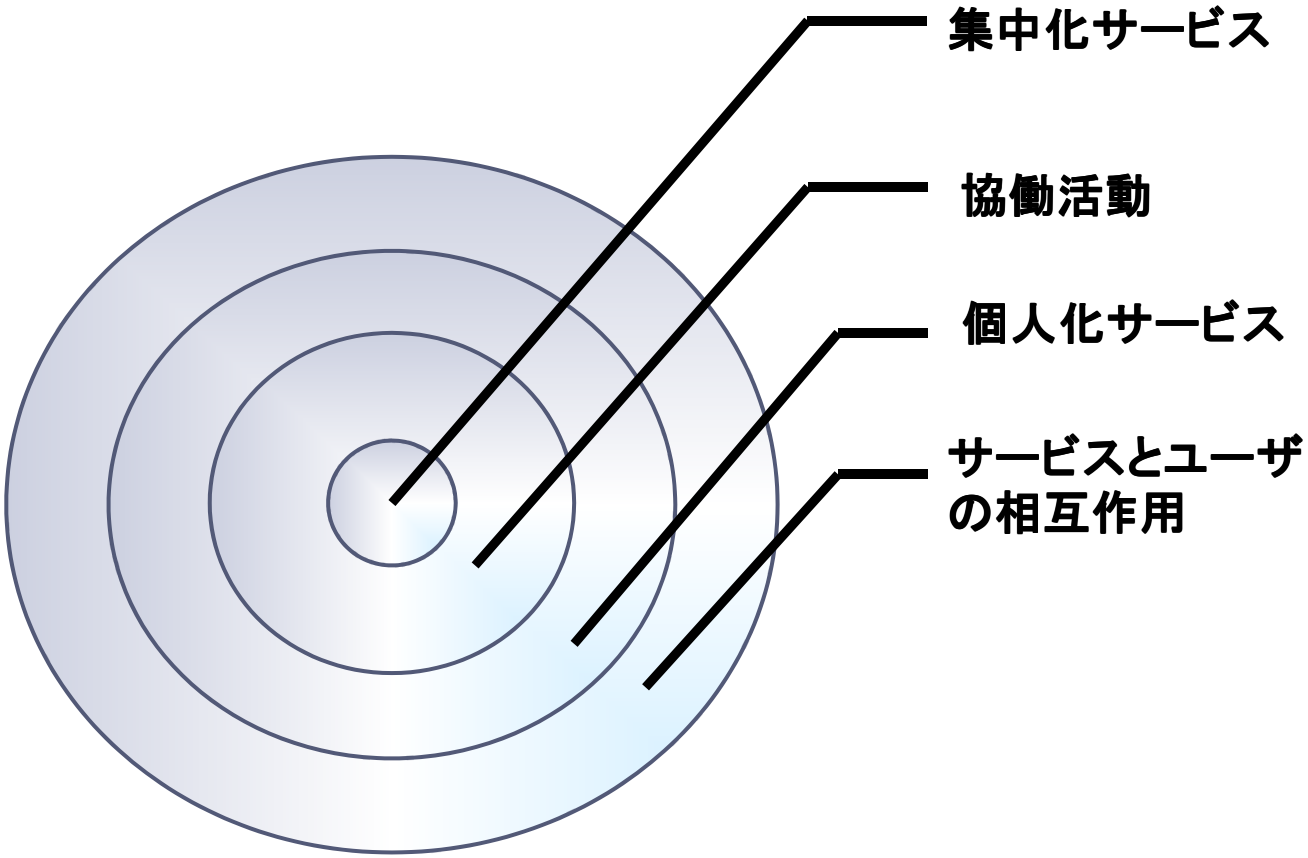
出典：SPEC Kit 327: *Reconfiguring Service Delivery*. ARL, 2011. p17.

サービス ブティック・ライブラリー・モデル（当初）



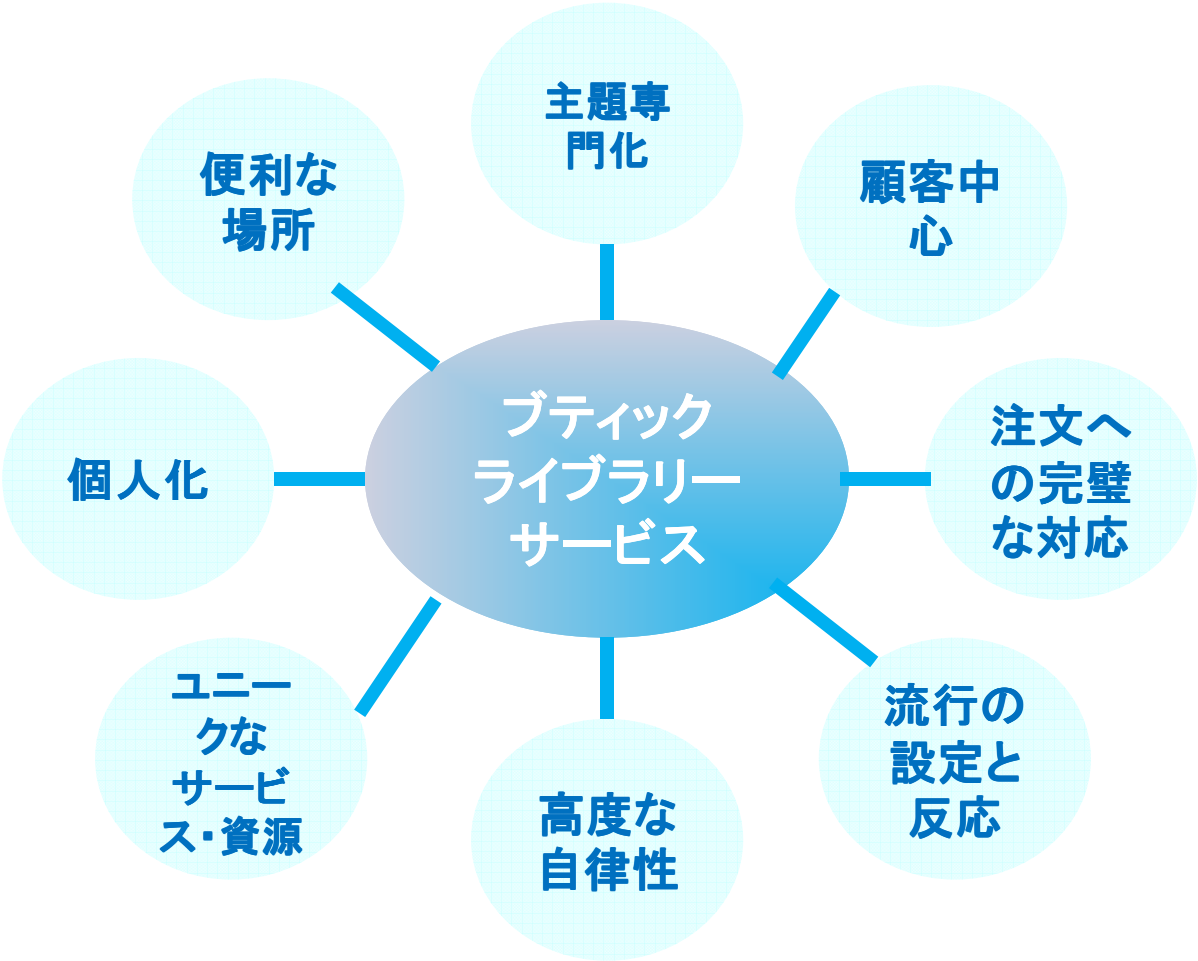
出典：*Library & Information Update*. July 2010.

ブティック・ライブラリー・モデル（修正）



出典：*Personalising Library Services in Higher Education*. Ashgate, 2013. p.9

ブティック・ライブラリー・サービスの特性



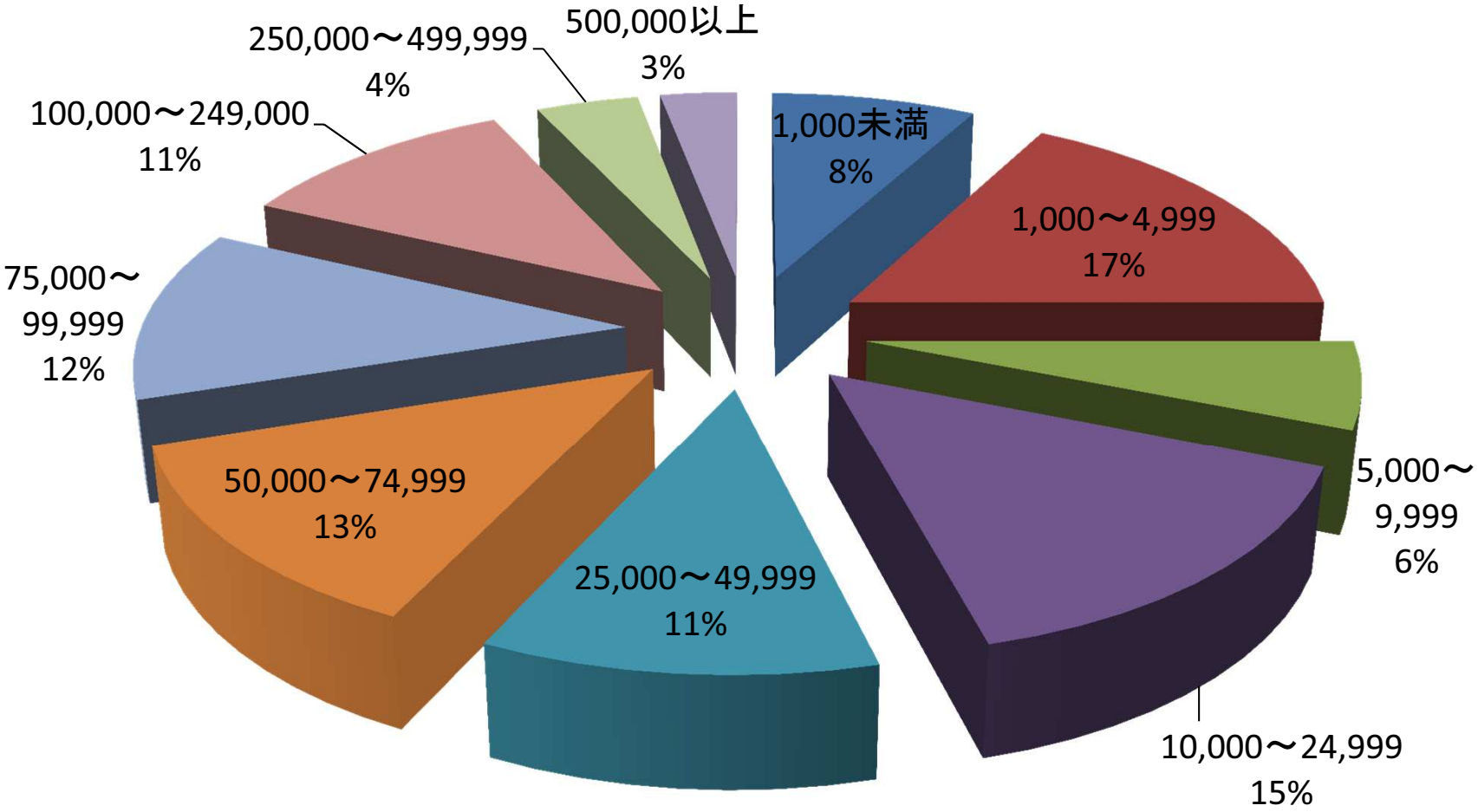
出典：*Library & Information Update*. July 2010.

コレクション 研究コレクションの将来

- 研究図書館は次の10年間に劇的に変化するだろう。
- 標準的な研究コレクションのリポジトリとしての〔研究図書館の〕役割の大部分は，グーグル・ブック・サーチ（GBS）と図書館員が丹念に作成したコレクションの没落の組合せによって取り除かれていくだろう。
- 研究コレクションの死は，2007年に始まった財政危機によって加速され，それはこの数年間ある程度続くだろう。
- 今後10年間は大学図書館にとって困難なものとなろう。この期間を通じて，高等教育機関はコレクション構築の伝統的なモデルにある根本的で固有の無駄に直面し，その解決に取り組むとともに，もっと効果的な顧客中心で顧客主導の収集モデルを求めるだろう。
- ごく少数の研究図書館が西洋の知的文化の総体を提示する記念碑的なコレクションとしての機能を果たし続ける一方で，圧倒的多数の研究図書館は，特定の顧客集団のリアルタイムの要求やそうでなければ，商業ベースの学術システムでは捕捉できない，当該機関が独自に生産した学術成果，データセット，そして貴重で稀な資料に絞ったサービスを行うだろう。

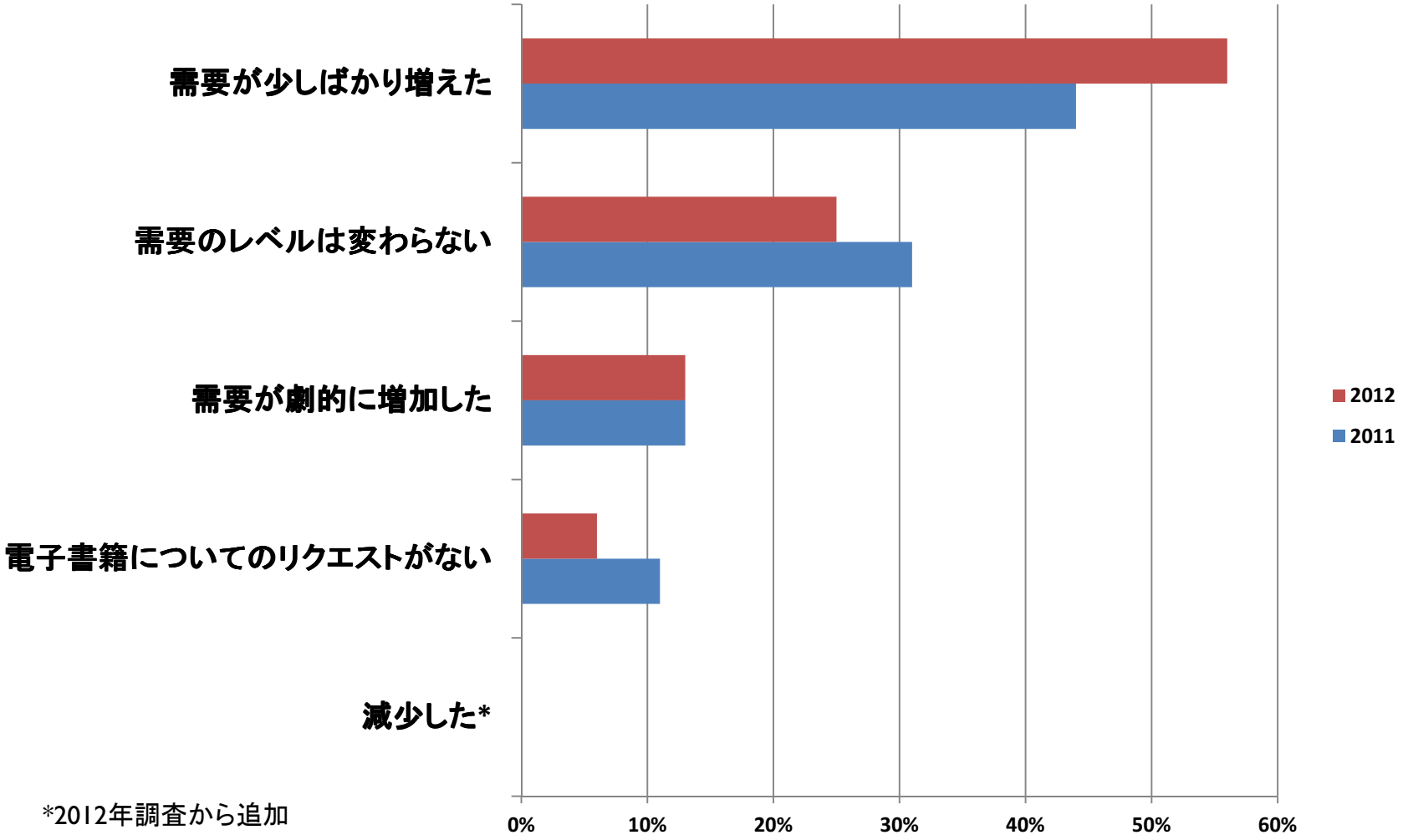
出典：Woodward, H. and Estelle, L. eds. *Digital Information*. Facet Publishing, 2010. p.53

コレクション 米国大学図書館における電子書籍購読契約数：2012 N=339



出典：*2012 Survey of Ebook Usage in U.S. Academic Libraries.* p.25

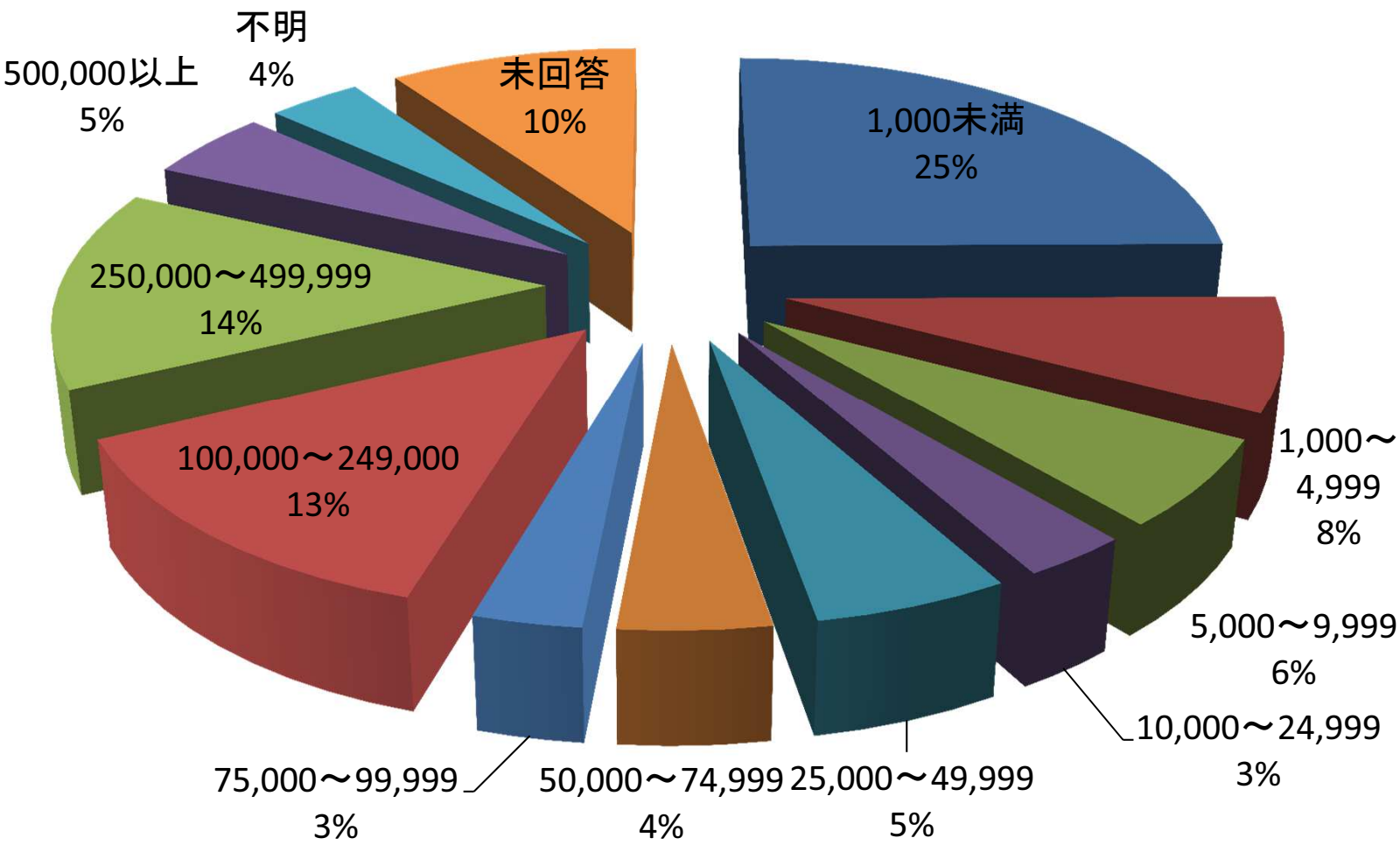
コレクション 米国の大学図書館における電子書籍の需要：2012 N=339



*2012年調査から追加

出典：*2012 Survey of Ebook Usage in U.S. Academic Libraries.* p.27

コレクション 英国大学図書館における電子書籍購読契約数：2010~2011　N=165（悉皆調査）



出典：*SCONUL Annual Library Statistics, 2010-2011*. 2012. p.24-27.から作成

コレクション シェアードプリントの可能性（1/2）

HathTrustによる協同デジタル図書館の提供

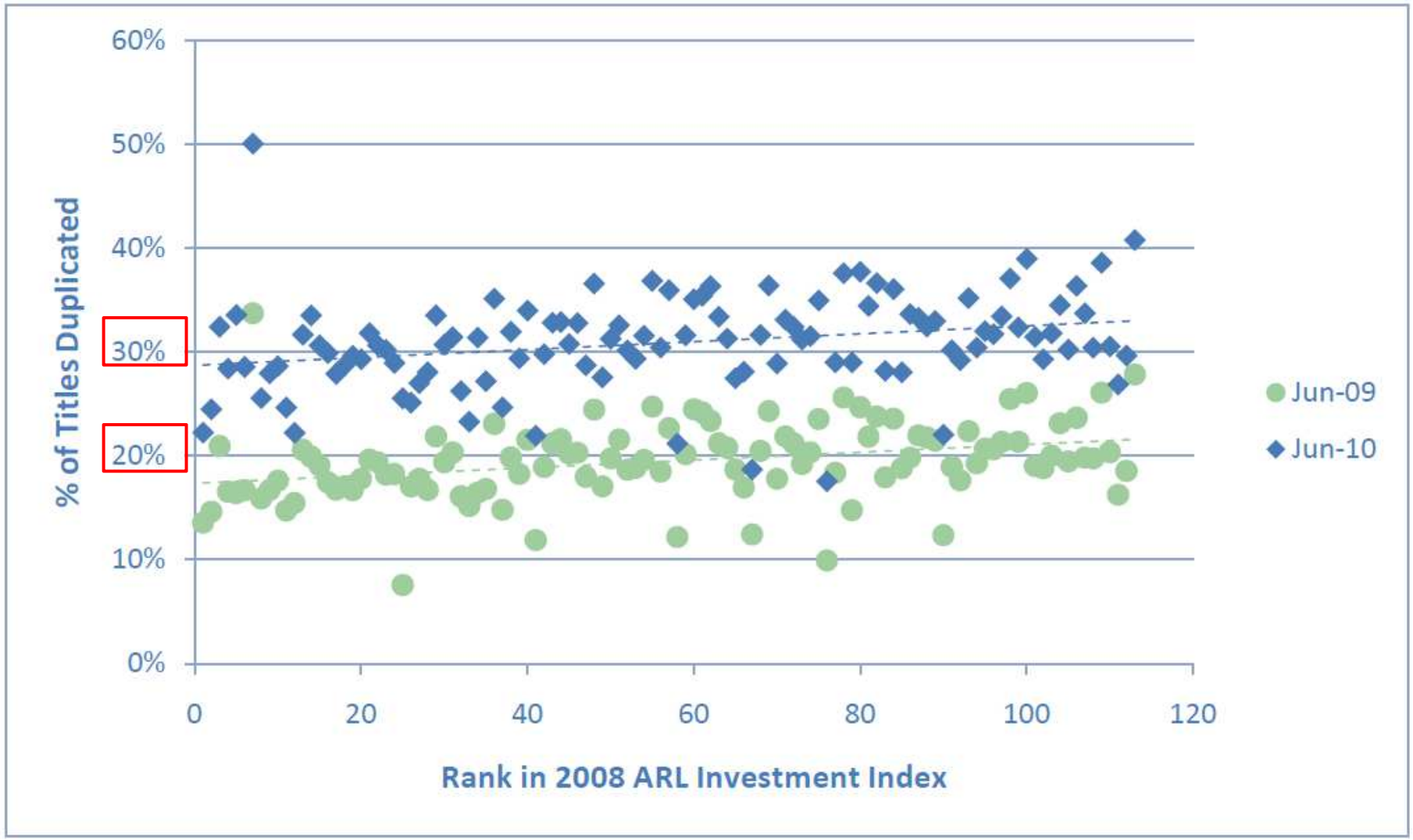
- 2008年にデジタルコレクションの共同リポジトリを開設
- 現在のパートナー　60館以上
- 1,078万タイトル
- 全書籍の目録・フルテキストの検索可能
- 加入ユーザの確認を受ければ、パブリックドメインの書籍は誰でも自由に閲覧・ダウンロード化

大規模デジタルコレクションによる各図書館のリソースの開放

- 米国の研究図書館が提供したコンテンツの1/3近くがHathiTrustでデジタル化・保管
- ARL加盟館所蔵の印刷体コレクションの60%以上を2014年6月までにHathiTrustで複製予定
- 45,000平方フィートを超えるスペースの節約がARL加盟館で可能

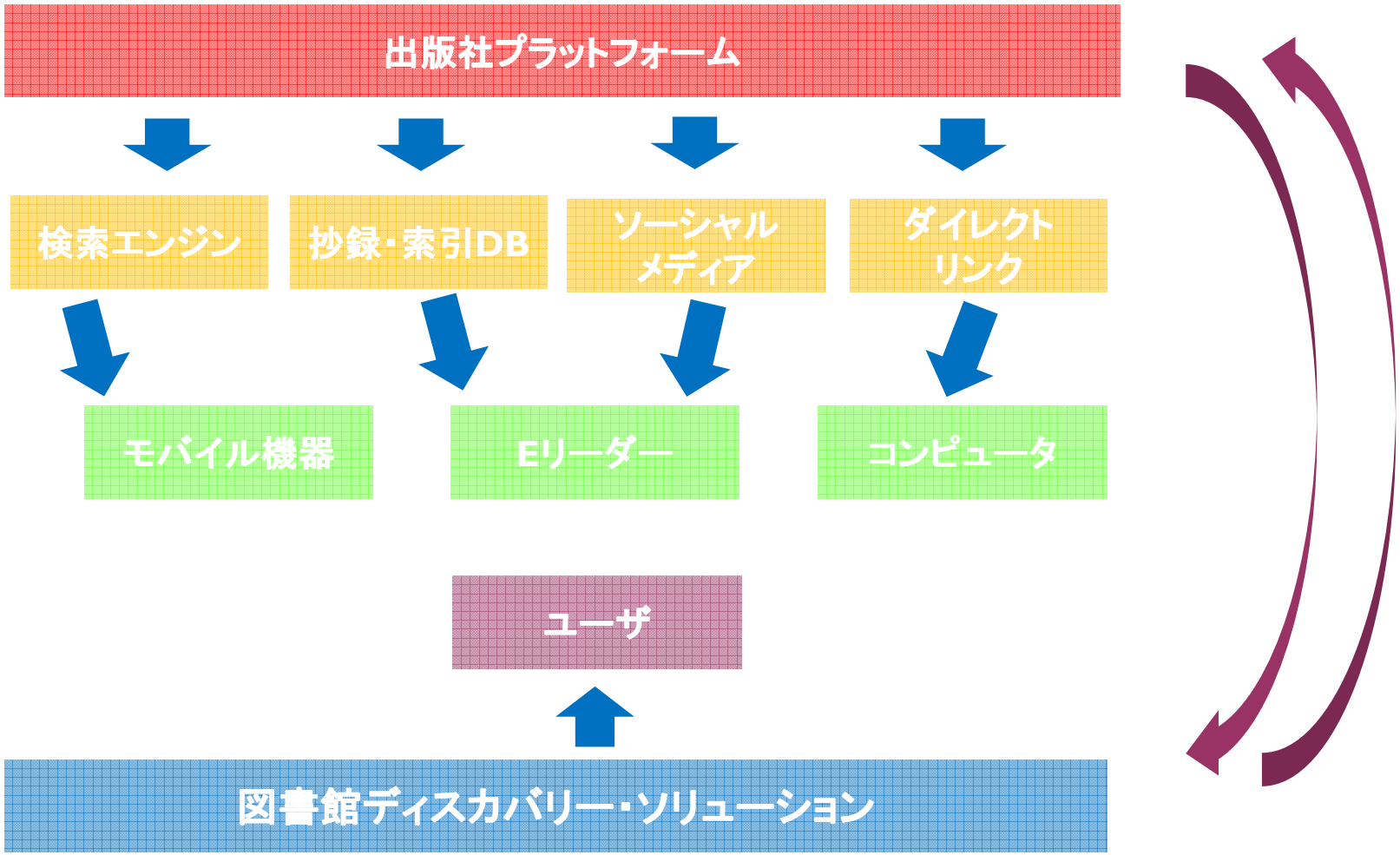
出典：University Leadership Council. *Redefining the Academic Library.* The Advisory Board Company, 2011. p. 38.

シェアードプリントの可能性（2/2）：Hathi TrustとARL加盟館の所蔵タイトル重複状況



出典：Malpas, C. *Cloud-sourcing Research Collections*. OCLC Research, 2011. p.62.

コレクション ディスカバリー・サービスの位置付け



出典：Shorley, D.and Jubb, M. eds. *The Future of Scholarly Communication*. Facet Publishing, 2013. p.111.

スペース 新築の米国大学図書館で教育研究における図書館の役割を最もよく表しているスペース　N=99

順位	スペース	回答数
1	図書館教室及び学習ラボ	３７
2	グループ学習・協同スペース	２６
3	ラーニング・コモンズ	１９
4	レファレンス・エリア／情報カウンター	１０
5	学習エリア	9
6	貴重書／アーカイブ／専門コレクション	9
7	閲覧室	7
8	ＦＤセンター	6
9	デジタルメディア作成センター	3
１０	２４時間利用エリア	3

出典：*The Academic Library Building in the Digital Age.* ACRL, 2010

スペース 新築の米国大学図書館で最も利用されているスペース：2003~2009　N=99

順位	スペース	回答数
1	グループ学習室	31
2	学習エリア	28
3	パブリックスペースのコンピュータ	18
4	ラーニング・コモンズ	16
5	コンピュータ・ラボ	10
6	カフェ	9
7	教室	5
8	会議室	4
9	柔らかい椅子	4
10	メディアセンター	3
	電子複写機	3

出典：*The Academic Library Building in the Digital Age.* ACRL, 2010

スペース大学図書館スペースの動向

年代	動向
2000年代	・変わりつつある教授法に対する図書館のサポート 例）グループ・ディスカッション・スペース，社会スペースの拡張 ・ラーニング・コモンズ ・不確実性を生み出しつつある学生人口 ・共有スペース ・変化の大きな原動力となるテクノロジー ・大きくクローズアップされる図書館の象徴的重要性 ・競争相手となる学習スペース
2012年時点で影響を与える主要因	・学習・教授法 ・変わりつつある学生人口 ・テクノロジー ・共有サービス ・代替学習スペースとキャンパス図書館 ・シンボルとしての図書館

出典：*University Libraries and Space in the Digital World. Ashgate, 2013. p.3, 201-215.*

職員ブレンド型専門職としての図書館職員

- 図書館情報学専門職は，取り巻く環境の急激な変換によって非常に多くの課題に直面している。図書館職員はあらゆる専門的なスキルと経験を活用し，それらを様々な事業モデルや戦略的挑戦や実践共同体に適合させることができる「ブレンド型専門職（blended professional）」となる必要がある。[1)]
- ブレンド型図書館職員とは，図書館業務の伝統的な一連のスキル，情報技術者のハードウェア／ソフトウェアのスキル，教授学習プロセスに技術を的確に適用できる教育デザイナー（instructional or educational designer）の能力が〔有機的〕に結びついた大学図書館職員[2)]

1) *Envisioning future academic library services*. Facet Pub.,2010. 2) *College & Research Libraries* July/August 2004

本日の講演の流れ

- はじめに
- 図書館の認識（機能）モデル
- 大学を取り巻く環境の変化と図書館
- 大学図書館の機能再考
- 大学図書館の構成要素とそれらの変化
- おわりに

図書館の価値と可能性の代替[測定]の領域／対応

図書館の価値と可能性を持つ代替[測定]の領域（1/3）

①学生の入学

・入学希望者の募集
・入学許可者の入学
・在校生への提案

②学生の在籍と卒業

・年間在籍（Fall-to-fall retention）
・卒業率

③学生の成功（Student Success）

・インターンシップの成功
・就職あっせん
・職務の給料
・大学院への合格
・市場性のあるスキル

出典：Oakleaf, Megan. *The Value of Academic Libraries*. ACRL, 2010.

図書館の価値と可能性を持つ代替[測定[の領域（2/3）

④学生の成績

・GPA（Grade Point Average）
・専門／教育試験成績

⑤学生の学習

・学習アセスメント
・教員の判定

⑥学生の経験，態度及び質の知覚（Perception of Quality）

・エンゲージメント調査自己報告（Self-report engagement studies）
・4年生／卒業生調査
・支援調査（Help surveys）
・卒業生からの寄付

⑦教員の研究生産性

・出版物の点数，特許の件数，技術移転の価値
・テニュア／昇進の判定

出典：Oakleaf, Megan. *The Value of Academic Libraries*. ACRL, 2010.

図書館の価値と可能性を持つ代替[測定[の領域（3/3）

⑧教員の助成金

・助成金提案書の件数（交付／非交付）
・交付された助成金の価値

⑨教員の授業

・図書館資源及びサービスの授業のシラバス，ウェブサイト，講義，実験，教科書，テキスト，指定図書等の統合
・教員と図書館員の連携：共同カリキュラム，課題あるいはアセスメントの設計

⑩機関の評判

・教員の雇用
・機関のランキング
・コミュニティとの提携

出典：Oakleaf, Megan. *The Value of Academic Libraries*. ACRL, 2010.

対応①：米国ケント州立大学図書館

- 図書館の深夜開館を利用している学生とその学業の成績（student success）は結びつくだろうか？

— 図書館の深夜開館を利用している学部学生（4,688人）や大学院生（207人）と学部学生や大学院生全体の間には，GPAについて統計上，有意な差が見られなかった。

— 図書館の深夜開館を利用している学部学生や大学院生と学部学生や大学院生全体の間には，在籍率（retention rates）について深夜開館利用者の方が高い，という統計上，著しく有意な差が見られた。

出典：Scarletto, E.A. Burhanna, K.J. Richardson, E. *Wide awake at 4 AM*. Journal of Academic librarianship. In Press.

対応②：ミネソタ大学校ツインシティー校図書館

- 図書館サービスを利用した1年次学生と利用しない1年次学生の間に学業成績等に違いがあるか？

—2011年秋学期の利用統計に基づき分析すると以下の結果が示唆された。

・図書館を利用した1年次学生（3,804人）は，利用しなかった学生（1,514人）に比べて，第1セメスターのGPAの数値が高い。

・図書館を利用した1年次学生は，利用しなかった学生に比べて，秋学期から春学期にかけての在籍率が高い。

出典：Soria, K.M. , Fransen, J. , Nackerud, S. *Library Use and Undergraduate Student Outcomes.* Portal: Libraries and the Academy, Vol.13 No.2, 2013. p.131-145.

筑波大学
University of Tsukuba

Tulips
University of Tsukuba Library

ご清聴ありがとうございました